

鹿児島県侵略的外来種カルテ

北・中米から導入された外来種です。隣県からの分布拡大によって、県内に侵入しました。鹿児島県では定着予防種、環境省では特定外来生物に指定され、始良市、霧島市、垂水市で確認されています。生態系のかく乱や柑橘類などの農作物への被害、寺社仏閣や人気のない家屋の屋根裏などで繁殖したり、糞尿による人への健康被害などが考えられています。アライグマを見つけたら、県自然保護課または各市町村に速やかに連絡をお願いします。早めの連絡が捕獲の成功、定着の防止につながります。

1 基本情報

分類

目・科名	ネコ目アライグマ科	
種名(亜種名)	アライグマ	
学名	<i>Procyon lotor</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 緊急対策外来種	
県カテゴリー	定着予防種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	横綱(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	北・中米(カナダ南部からメキシコ北部にかけて)	
県内初報告	2015年(※)	
県内への侵入の経緯	隣県からの分布拡大	
県内の侵入分布	始良市、霧島市、垂水市	
全国の侵入分布	沖縄県を除く46都道府県	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、小型ほ乳類、鳥類、両生類、は虫類、昆虫類、果実、種子などを食べる。 通常2～6個体のオスと交尾する。オスは交尾後1～3日は、メスと行動するが、その後は完全に別行動をとり、子育てには参加しない。	
形態	全長はオス63.4～105.0cm、メス60.0～90.9cm、頭胴長42～60cm、尾長はオス20.0～40.5cm、メス19.2～34.0cmで全体的にオスが大型である。体重は3.6～9.0kg。5本の独立した足の指があり、眉間には黒い筋、白い縁取りの大きくとがった耳、しましまの尻尾が特徴である。	
繁殖形態	交尾期は2～3月。妊娠期間は54～70日で出産期は4～6月である。産子数は平均3～4頭である。繁殖に失敗したメスは、同じ年に2度発情期がくることもある。	
生息環境	通常、餌や水場、木のうろや岩穴、人家や畜舎などの、営巣を行う環境の整った地域に定住する複数のメスを単独のオスが囲う。水資源の豊富な森林環境を中心に分布が広がる傾向が強い。しかし、一定の水場さえ確保できれば、あらゆる環境に適応する。日本においても、各地の森林だけでなく、牧草地帯から都市域まで、広く定着が確認されている。	
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。	

※平成6年に伊佐市(当時大口市)で狩猟による捕獲記録があるが、その後20年以上記録はなく、誤認の可能性が高いため除外。

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①小型のほ乳類、鳥類、は虫類、両生類、昆虫類、魚類、甲殻類などの捕食。 ②トウモロコシやイチゴ、メロン、スイカなど農作物の食害、養鶏場、養魚場における被害。 ③寺社仏閣や人気のない家屋の屋根裏などで繁殖したり、糞尿による人への健康被害。国内での事例はないが、自然分布域では、狂犬病、アライグマ回虫症の媒介者として知られている。
県内で特に予想される被害	在来は虫類、両生類、果樹類を中心とした農作物への被害。 寺社仏閣や人気のない家屋の屋根裏などに住み着くことで建物の棄損や人への健康被害が予想される。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在、雑食性、高い繁殖能力、高い環境適応力。 ②テレビアニメによる一大飼育ブームの到来と同時多発的な遺棄。
3 対策	
アライグマを見つけたら	アライグマを見つけたら、県自然保護課または各市町村に速やかに連絡をお願いします。早めの連絡が捕獲の成功、定着の防止につながります。
見分け方	5本の独立した足の指、眉間の黒い筋、白い縁取りの大きくとがった耳、しましまの尻尾が特徴。 タヌキ、アナグマなどと見間違えられることが多く、尻尾に縞模様があるかどうかで見分けられる。また、子供の手形のような足跡が確認できれば、アライグマが生息していることが分かる。
見かけやすい場所・時間	夜行性であり、基本的に夜間にみられる。水辺周辺の開けた環境や少量の水が流れる沢沿いを好む。木登りが得意で大径木のうろなどを好んで利用する。
防除方法	箱わなによる捕獲が主流。水辺周辺の開けた環境を好むため、少量の水が流れる沢沿いにわなを設置するとよい。揚げたもの、甘いにおいのするものを好むため、わなの最深部には揚げパン、わな入り口から奥に向けてキャラメル味のスナック菓子、わな周辺に撒き餌としてドッグフードを使用すると、効率的かつ選択的にアライグマを捕獲することができる。
防除の取組事例	2015年9月に垂水市で確認されたアライグマを捕獲するため、垂水市が主体となり、同年10月から12月にかけてアライグマ確認場所周辺に箱わなを設置、翌年1月から3月にかけて生息状況調査のために自動撮影カメラを設置した。北海道、兵庫県などをはじめ、全国各地で地方自治体を中心に捕獲が行われている。
その他	・県内へのアライグマ侵入確認に伴い、県は、2015年12月に鹿児島県アライグマ防除実施計画を策定。 ・県では、アライグマ防除を実施する自治体などを対象に、箱わな及び自動撮影カメラの貸し出しを行っている。

参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10150.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 農林水産省 野生鳥獣被害防止マニュアル-アライグマ、ヌートリア、キョン、マンギース、タイワンリス(特定外来生物編)- http://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/h_manual/h22_03.html 環境省 九州地方環境事務所 九州のアライグマについて http://kyushu.env.go.jp/wildlife/mat/m_2_2.html 環境省 北海道地方事務局 地域からアライグマを排除するための 手引き http://hokkaido.env.go.jp/wildlife/mat/m_2_2.html 大阪府 アライグマの被害対策について http://www.pref.osaka.lg.jp/doubutu/yaseidoubutu/raccoon.html 鹿児島県 注意！県内で特定外来生物アライグマが確認されました http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/araiguma.html 鹿児島県 鹿児島県アライグマ防除実施計画について https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/araigumaboujyo.html 大分県 特定外来生物アライグマについて http://www.pref.oita.jp/soshiki/13070/araiguma.html 佐賀県 アライグマ対策について http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00314135/index.html 福岡市 特定外来生物「アライグマ」について http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-chosei/hp/sizenkankyou/araiguma.html
-------------------	--

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

1979年に奄美大島に導入されました。県本土でも確認されましたが、侵入経緯は不明です。鹿児島県では緊急防除種、環境省では特定外来生物に指定され、奄美大島、鹿児島市喜入地区、薩摩川内市、南さつま市で確認されています。奄美大島では、アマミノクロウサギなどの固有種を捕食する影響が出ています。国や県では根絶を目指しています。マングースを見つけたら、奄美大島では環境省奄美野生生物保護センターに、本土などでは県自然保護課か市町村に速やかに連絡をお願いします。新鮮な情報が、その後の捕獲成功につながります。

1 基本情報

分類

目・科名	ネコ目マングース科	
種名(亜種名)	フイリマングース	
学名	<i>Herpestes auropunctatus</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	大関(島嶼)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN世界の侵略的ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	東南アジア	
県内初報告	奄美大島は1979年頃、県本土は1980年以前	
県内への侵入の経緯	奄美大島におけるマングースの導入については、1979年(昭和54年)頃に名瀬市(現・奄美市名瀬)西部の赤崎地区で放獣されたものに由来すると考えられているが、放獣時の正式記録は残っていない(出典:『平成27年度奄美大島におけるフイリマングース防除事業報告書』(2016年7月)等) 県本土は、導入の時期及び理由ともに不明	
県内の侵入分布	奄美大島、鹿児島市喜入地区、薩摩川内市、南さつま市	
全国の侵入分布	沖縄島、奄美大島、鹿児島県本土(鹿児島市喜入地区) 2012年鹿児島県薩摩川内市、2016年南さつま市でも確認されたが定着の有無は不明	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、小型ほ乳類、鳥類、は虫類、昆虫類、果実などを食べる。 昼行性で群れを作らず単独で地上の巣穴で生活する。アマミノクロウサギなどの巣穴に入り餌の探索をする。	
形態	頭胴長25～37cm、尾長19.2～29.0cm、体重はオス600～1,000g、メス400～600gでオスの方が大きい。腹部を除いて黒～褐色と黄白色の毛に覆われる。細長い体型で前後の足は短い。頭部は細長く、鼻先はとがる。尾は根元が太く、先端に行くほど細くなる。耳は短く丸い。雌雄とも肛門近くに臭腺があり、悪臭を放つ。	
繁殖形態	繁殖期は年1回で、交尾期は1月～8月。出産期は3月～10月、妊娠期間は6～7週間である。産子数は平均2.08頭。	
生息環境	奄美大島では、海岸から原生林まで、市街地を除くあらゆる環境に生息している。 県本土では、耕作放棄地、荒地、竹藪及び果樹園などの開けた環境に生息している。	
特記事項	県本土では2009年～2011年に鹿児島市喜入町及び薩摩川内市で防除が行われ、その後確認されていなかったが、2016年に南さつま市で、新たに1頭が確認された。 特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①小型ほ乳類、鳥類、は虫類、両生類、昆虫類の捕食。奄美大島では、希少種や固有種の捕食が確認されている。 ②養鶏への被害、バナナ・マンゴー・柑橘類などへの食害。 ③人獣共通感染症の媒介。沖縄でレプトスピラの保菌が知られ、西インド諸島では狂犬病ウイルスも検出されている。
県内で特に予想される被害	小型ほ乳類、鳥類、は虫両生類、昆虫類の捕食。奄美大島では、希少種や固有種の捕食が確認されている。 養鶏、バナナ・マンゴー・柑橘類などへの被害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在。 ②ハブ対策として奄美大島に導入。
3 対策	
フィリマングースを見つけたら	根絶を目指しています。奄美大島では環境省奄美野生生物保護センターに、本土などでは県自然保護課か市町村に速やかに連絡をお願いします。新鮮な情報が、その後の捕獲成功につながります。
見分け方	フィリマングースの体はテンより小さく、イタチより大きい。イタチの体色は褐色がかっているが、フィリマングースの体色は黒～褐色と黄白色である。また、フィリマングースの尾は根元が太く先細りしている。
見かけやすい場所・時間	昼行性であり、基本的に昼間に見られる。本土では、耕作地周辺などの開けた環境で見られるが、奄美大島では森林内など、さまざまな環境で見られる。
防除方法	わなによる捕獲など。奄美大島では、捕殺わなが使用されている。毒餌や探索犬を使用した捕獲など、新たな防除技術開発も進められている。奄美大島では、2017年から毒餌による防除を試験的に行っている。
防除の取組事例	奄美大島、沖縄島では、長年にわたる捕獲と防除の研究が進められており、平成32年までの根絶を環境省が目標として掲げている。2000年頃には約10,000頭が生息していた奄美大島のフィリマングースは、2012年には上限値でも300頭以下にまで減少したと推定されている。
その他	—

参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10210.html 環境省奄美野生生物保護センター 外来種対策 http://amami-wcc.net/efforts/alien-species/ Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 鹿児島県 マングースを発見したら http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/mangu-suver2.html 鹿児島県 マングース捕獲対生整備マニュアル https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/documents/39057_20140507115137-1.pdf 鹿児島県 鹿児島県マングース防除実施計画(本文) http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/documents/39057_20140507115058-1.pdf 鹿児島県 鹿児島県マングース防除実施計画(資料編) https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/documents/39057_20140507115121-1.pdf 哺乳類科学 鹿児島県本土に生息するフイリマングース<i>Herpestes auropunctatus</i>の根絶の可能性と在来種の生息状況について https://www.jstage.jst.go.jp/article/mammalianscience/55/2/55_167/_pdf
-------------------	---

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

ネズミの駆除、ペットとして飼育されていたものが遺棄されて野生化しました。鹿児島県では重要防除種に指定され、奄美大島、徳之島をはじめ、県内各地で生息していると考えられています。在来小動物を捕食・捕殺し、特に島嶼では希少種・固有種へ大きな被害がでています。ノネコを増やさないために、飼い猫は適正に管理しましょう。

1 基本情報

分類

目・科名	ネコ目ネコ科	
種名(亜種名)	ノネコ	
学名	<i>Felis catus</i>	
環境省カテゴリー	緊急対策外来種	
県カテゴリー	重要防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	横綱(島嶼)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100	

侵入・定着の状況

自然分布域	原種は中東～北アフリカに分布するリビアヤマネコ <i>Felis silvestris lybica</i> と考えられている。家畜種で、家畜化はエジプトで約6000年前に行われたとされている。
県内初報告	不明
県内への侵入の経緯	ネズミの駆除、ペットとして飼育されていたものが遺棄されて野生化した
県内の侵入分布	県内各地(奄美大島、徳之島)
全国の侵入分布	島嶼を含めほぼ全国

生態学的特性

生態	食性は肉食で、小型ほ乳類、鳥類、は虫類、両生類、昆虫類を捕食する。 単独性で排他的な、なわばりを持つ。
形態	体重オス3～6kg、メス2.5～4.5kg。飼い猫と見た目は同じであり、体の色や模様は様々なタイプがある。
繁殖形態	発情期は年に2～3回。5～9ヶ月齢で繁殖可能になる。産子数は平均4～5頭程度、最大9頭。メス一頭あたり、生涯に50～150頭出産可能。
生息環境	人間の生活に依存しない場所で、主に森林に生息する。
特記事項	ノネコ : 人間の生活に依存せず、自然環境下で完全に野生化しているネコ ノラネコ: 特定の飼い主を持たないが、何らかの形で人間の生活に依存しているネコ

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来小動物の捕食・捕殺。特に島嶼の希少種・固有種への被害が大きい。ネコは捕食だけでなく「遊び」としてハンティングを行うことがあり、少数のネコにより多数個体の動物が捕殺されることがある。
県内で特に予想される被害	島嶼の希少種・固有種への被害 カラスバト、アマミノクロウサギ、アマミトゲネズミ、ケナガネズミなど
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在。 ②ペットとして飼われていたものの遺棄。
3 対策	
ノネコとの関わり方	ノネコはもともと、ペットとして飼われていたネコです。そのため、現在飼っているネコは最後まで責任を持って飼い続けましょう。適切な繁殖制限やマイクロチップの埋め込みなどによる登録・管理を行い、室内で飼育するなど、飼い猫の適正な管理を行いましょう。
見分け方	体の色や模様、眼色、毛の質、長さにはさまざまなタイプがあり、飼い猫やノラネコと区別はつかない。 人間の生活に依存しない場所、主に森林などで確認されるネコはノネコであるおそれ大きい。
見かけやすい場所・時間	人間の生活に依存しない場所で、主に森林などで確認されるネコはノネコであるおそれ大きい。
防除方法	箱わななどによる捕獲。
防除の取組事例	徳之島では、2014年にノネコ生息状況調査を実施し、2015年からノネコの捕獲を実施している。 沖縄県では、2002年からノネコの捕獲・排除を実施している。 小笠原諸島では、2005年に「小笠原ネコに関する連絡会議」を発足し、ノネコの捕獲を実施している。
その他	奄美大島・徳之島では、飼い猫の適正飼養条例を施行（マイクロチップ装着や屋内飼育、避妊・去勢手術の努力義務化）。 北海道天売島、小笠原諸島、沖縄島やんばる地域（国頭村・大宜味村・東村）、西表島などの全国の島嶼域では、ノネコの捕獲と里親探し・飼い猫の登録制度と繁殖制限などの様々な対策が、地域ごとに取られている。
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10220.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ やんばる野生生物保護センター 外来種対策 ノネコ・ノイヌ http://www.ufugi-yambaru.com/torikumi/gairai_noinu.html 奄美新聞 2015年6月22日記事 http://amamishimbun.co.jp/index.php?QBLog-20150622-2 小笠原自然情報センター 自然を守る取り組み http://ogasawara-info.jp/sizenwomamorutorikumi/gutaitekiniha.html 鹿児島大学 鹿児島環境学プロジェクト 奄美の明日を考える奄美 国際ノネコ・シンポジウム記録集 http://kankyo.rdc.kagoshima-u.ac.jp/?p=5138

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

島嶼で食肉用として飼育していたものが、管理放棄されて野生化しました。鹿児島県では緊急防除種に指定され、黒島、屋久島、口之島、トカラ列島(中之島、臥蛇島、平島、諏訪之瀬島、悪石島、小宝島、宝島、横当島)、奄美大島、加計呂麻島、徳之島で確認されています。草木を食べ尽くしたり、それに伴う土砂崩壊などが確認されています。新たなノヤギを生まないために、飼育しているヤギを放し飼いにしないなど、飼育個体の適正な管理を行うことが必要です。奄美大島では条例で放し飼いが禁止されています。

1 基本情報

分類		
目・科名	ウシ目ウシ科	
種名(亜種名)	ノヤギ	
学名	<i>Capra hircus</i>	
環境省カテゴリー	緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	大関(島嶼)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	カフカス・アフガニスタンなどの西アジア	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	管理放棄されて野生化したと考えられる	
県内の侵入分布	黒島、屋久島、口永良部島、トカラ列島(有人島全島及び臥蛇島、横当島)、奄美大島、加計呂麻島	
全国の侵入分布	父島(小笠原諸島)、八丈島(伊豆諸島)、馬渡島(佐賀県)、五島列島の一部、宇治群島、黒島、屋久島、口永良部島(大隅諸島)、トカラ列島の有人島全島及び臥蛇島、横当島(トカラ列島)、奄美大島(奄美諸島)、伊平屋島・屋那覇島・粟国島・慶良間島・阿嘉島・慶留間島・外地島(沖縄諸島)、西表島(八重山諸島)魚釣島(尖閣諸島)	
生態学的特性		
生態	食性は草食で、ほとんどの木本、草本類、葉、芽、樹皮を食べる。雌雄別々に2～10頭程度の群れを作る。危険が迫ると100頭以上の大きな群れを作る。木登りも出来る。	
形態	体重はオス27～45kg、メス25～35kg。角長はオス75cm前後、メス30cm以下。体色は変化に富み、白色、黒色、暗褐色、灰褐色や、それらが混じる。両性とも特徴的なヒゲと角を持つ。	
繁殖形態	発情期は秋であるが、父島ではほぼ1年中繁殖する。多くは11月～4月に生まれる。妊娠期間は144～158日程度。産子数は年1回1～2頭。	
生息環境	もともとヤギは貧弱な植生でも生息できることから、様々な環境下で生息することができる。	
特記事項	ノヤギ: 飼育されていたヤギが野生化した個体。 ヤギ : 家畜として適正に管理されている個体。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①草木を食べつくすことによる生態系の破壊。 ②生態系の破壊に伴う土砂崩壊。
県内で特に予想される被害	草本を食べることによる生態系の破壊。それに伴う土砂崩壊。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①餌となる草本を食べつくす。 ②家畜として飼われていたものの野生化。
3 対策	
ノヤギとの関わり方	新たなノヤギを生まないために、飼育しているヤギを放し飼いにしないなど、飼育個体の適正な管理を行うことが必要です。奄美大島では条例で放し飼いが禁止されています。
見分け方	ノヤギの体色は変化に富み、白色、黒色、暗褐色、灰褐色や、それらが混じる。両性とも特徴的なヒゲと角を持つ。なお、本種に類似したほ乳類はいない。 飼われているヤギで放し飼いにされているヤギもいる。そのため、ノヤギとの区別が難しい場合があり、注意する必要がある。
見かけやすい場所・時間	主な活動時間は昼間。ヤギは貧弱な植生でも生活できることから、様々な環境に生息しているが、崖地では目立って特に見つけやすい。
防除方法	高密度時は、誘導フェンスによる狭い地域への追い込みやくくりわなによる捕獲。低密度化したあとの残存個体探索法として、探索犬、発信機をつけたメス個体の追跡、不妊化した発情メスによるオス誘引など、様々な技術が確立している。
防除の取組事例	奄美大島では、有害捕獲が進められている。 東京都では、平成6年度から生態系や生物多様性を確保するために野性化したヤギ(ノヤギ)の防除を実施している。防除は、賀島列島からはじめ、平成15年度までに賀島列島(賀島、媒島)のノヤギの防除を達成。父島列島の兄島では、平成16年度から平成19年度まで防除を行い、平成21年度に根絶。弟島では、平成20年度から平成22年度まで防除を行い、平成23年度に根絶。平成22年度からは、父島での防除を進めている。
その他	奄美大島は特区になっており、ノヤギが狩猟鳥獣となっている。
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10290.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 東京都小笠原支庁ホームページ 東京都の取り組み-父島列島のノヤギ排除 http://www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogasawara/nature/grapple_chic_hijima.html

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

ネズミ駆除と毛皮目的で導入されました。県本土では在来種として生息しています。しかし、トカラ列島（口之島、中之島、臥蛇島、平島、諏訪之瀬島、悪石島）、喜界島、沖永良部島、与論島に持ち込まれ、これらの島では外来種になっています。鹿児島県では緊急防除種に指定されています。在来生物を捕食しており、平島、悪石島、与論島では、両生は虫類の絶滅や農業被害（ニワトリなど）の影響が出ています。奄美大島、徳之島、トカラ列島の宝島、小宝島などにはまだ侵入・定着が確認されていません。もし、これらの島で見かけたら、至急、県自然保護課が市町村にお知らせ下さい。

1 基本情報

分類		
目・科名	ネコ目イタチ科	
種名(亜種名)	ニホンイタチ(コイタチ)	
学名	<i>Mustela itatsi</i>	
環境省カテゴリー	緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	県内由来外来種	
侵略的外来種番付表	張出横綱(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内由来外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	本州、四国、九州といくつかの周辺島嶼(佐渡島、伊豆大島、隠岐、小豆島、奄岐、屋久島、種子島など)	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	ネズミ駆除と毛皮目的で導入された	
県内の侵入分布	トカラ列島(口之島、中之島、臥蛇島、平島、諏訪之瀬島、悪石島)、喜界島、沖永良部島、与論島	
全国の侵入分布	北海道と周辺島嶼(利尻島、礼文島)、伊豆諸島(利島、三宅島、八丈島、青ヶ島)、五島列島、トカラ列島(口之島、中之島、臥蛇島、平島、諏訪之瀬島、悪石島)、奄美諸島(喜界島、沖永良部島、与論島)、沖縄諸島(伊江島、座間味島)、大東諸島(北大東島、南大東島)、先島諸島(宮古島、伊良部島、下地島、波照間島)	
生態学的特性		
生態	食性は肉食で、は虫類(トカゲ類、ヘビ類)、カエル、ネズミ類、鳥類、昆虫類、甲殻類、魚類を捕食する。土穴などを巣とする。オスはいくつかのメスの行動圏に重なるような行動圏を持つ。	
形態	頭胴長はオス27～37cm、メス16～25cm、尾長はオス12～16cm、メス7～9cm。全身山吹色だが、額中央部から鼻にかけて黒い。オスはメスより2まわり以上大きい。	
繁殖形態	交尾期は4～5月で、九州では年2回(2回目は秋頃といわれているが、詳しい時期については不明)。産子数は1～8頭、平均3～5頭。	
生息環境	山間部、農耕地、民家周辺など。導入された島嶼では民家周辺などにも多い。	
特記事項	県本土では在来種として生息しています。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①ネズミ類、鳥類、は虫類(トカゲ類、ヘビ類)、両生類(カエル)、昆虫類、甲殻類、魚類の捕食。平島、悪石島、与論島では、は虫類、両生類を絶滅させている。 ②ニワトリなどへの農業被害。
県内で特に予想される被害	トカラ列島、喜界島、沖永良部島、与論島におけるネズミ類、鳥類、は虫類(トカゲ類、ヘビ類)、両生類(カエル)、昆虫類、甲殻類、魚類の捕食。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在。 ②ネズミ駆除の目的での導入。
3 対策	
ニホンイタチを見つけたら	奄美大島、徳之島、トカラ列島の宝島、小宝島などにはまだ侵入・定着が確認されていません。もし、これらの島で見かけたら、至急、県自然保護課か市町村にお知らせ下さい。
見分け方	ニホンイタチは、全身山吹色で、額中央部から鼻にかけて黒い。類似種のテンは手足が黒く、耳はやや大きく、目立っている。
見かけやすい場所・時間	昼間も夜間も見られ、山間部、農耕地、民家周辺などに生息している。
防除方法	ファイリマングース防除で使われているものと同様のわなが有効である。
防除の取組事例	北海道では、オスのみが狩猟鳥獣になっている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10320.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 北海道 北海道ブルーリスト ニホンイタチ http://bluelist.ies.hro.or.jp/db/detail.php?k=01&cd=24

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

ペットとして飼育されていたものが遺棄されて野生化しました。鹿児島県では重要防除種に指定され、奄美大島、徳之島をはじめ、県内各地で生息していると考えられています。奄美大島では、アマミノクロウサギなど希少動物の捕食が確認されています。ノイヌを増やさないために、現在飼っているイヌは最後まで責任を持って飼い続けましょう。また、適切な繁殖制限などを行い、飼い犬の適正な管理を行いましょう。

1 基本情報		
分類		
目・科名	ネコ目イヌ科	 (環境省奄美自然保護官事務所 提供)
種名(亜種名)	ノイヌ	
学名	<i>Canis familiaris</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	重要防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	小結(島嶼)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	ユーラシア(オオカミ(<i>Canis lupus</i>)を原種として家畜化された動物が野生化)	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	ペットとして飼育されていたものが遺棄されて野生化した	
県内の侵入分布	県本土各地、奄美大島、徳之島	
全国への侵入分布	全国各地	
生態学的特性		
生態	食性は肉食性の強い雑食で、野生動物を捕食する。 キツネの巣穴などを使って繁殖する。	
形態	ノイヌ化(野生化)しているのは中型犬以上の雑種が多い。犬種や個体によって形態・大きさ・色などは様々である。	
繁殖形態	繁殖期は通年で、産子数は1～15頭。	
生息環境	森林に生息する。	
特記事項	ノイヌ：人間の生活に依存せず、自然環境下で完全に野生化しているイヌ。 ノライヌ：特定の飼い主を持たないが、何らかの形で人間の生活に依存しているイヌ。	

(環境省奄美自然保護官事務所 提供)

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①アマミノクロウサギなど希少種・固有種の捕食。
県内で特に予想される被害	島嶼において、アマミノクロウサギなどの希少種・固有種の捕食。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在。 ②ペットとして飼われていたものの遺棄。
3 対策	
ノイヌとの関わり方	ノイヌはもともとペットとして飼われていたイヌです。現在飼っているイヌは最後まで責任を持って飼い続けましょう。 適切な繁殖制限などを行い、飼い犬の適正な管理を行いましょう。
見分け方	飼い犬と区別はつかない。なお、野生化しているノイヌは中型犬以上の雑種が多い。
見かけやすい場所・時間	基本は昼間に行動する。森林に生息する。
防除方法	箱わななどによる捕獲。
防除の取組事例	—
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10160.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

1980年代に屋久島に導入されました。県本土では在来種として生息しています。鹿児島県では重要防除種に指定されています。在来ほ乳類(ネズミ類)、鳥類、昆虫類が捕食され、ウミガメの卵の捕食も確認されています。また、人畜共通感染症を媒介するおそれがあります。屋久島では防除を進めています。また、屋久島以外の島嶼にはまだ侵入・定着が確認されていません。もし、島嶼でタヌキを見かけたら、至急、県自然保護課か市町村にお知らせ下さい。早めの連絡が捕獲の成功、定着の防止につながります。

1 基本情報

分類

目・科名	ネコ目 イヌ科	
種名(亜種名)	ホンドタヌキ	
学名	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	重要防除種	
由来	県内由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内由来外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	ベトナム北部、中国東部～東北部、モンゴル東部、ロシア南東部、サハリン、日本列島	
県内初報告	1980年代に導入された	
県内への侵入の経緯	公的な導入ではなく、個人の飼育個体の遺棄	
県内の侵入分布	屋久島	
全国の侵入分布	知夫里島(隠岐諸島)、屋久島に導入されている 屋久島では、低地全体に分布を広げている	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、小型哺乳類(ノネズミ類)、鳥類、昆虫類、野生果実を食べる。 親子あるいは家族が近い距離に集まり行動する。特定の場所に集中して排泄するため糞を行う。これには、個体や家族集団間のなわばりを識別する役割があると考えられている。	
形態	頭胴長50～60cm、尾長15cm、体重3～5kg。全身白毛が少しまだらに入った灰黒色。尾はふさふさし、目の周囲には黒毛の濃いパンダ模様がある。	
繁殖形態	交尾期は2～4月で出産期は5～6月。産子数は1～8頭で、平均4～5頭。	
生息環境	郊外の住宅地周辺から山地まで広く生息。	
特記事項	県本土では在来種として生息しています。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来ほ乳類(ネズミ類)、鳥類、昆虫類の捕食。特に屋久島では、ウミガメの卵を捕食。 ③人畜共通感染症の媒介。
県内で特に予想される被害	島嶼における在来ほ乳類(ネズミ類)、鳥類、昆虫類の捕食。屋久島でのウミガメの卵の捕食。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在。 ②飼われていたものの遺棄。
3 対策	
ホンドタヌキを見つけたら	屋久島では防除を進めています。また、屋久島以外の島嶼にはまだ侵入・定着が確認されていません。もし、島嶼でタヌキを見かけたら、至急、県自然保護課か市町村にお知らせ下さい。早めの連絡が捕獲の成功、定着の防止につながります。
見分け方	ホンドタヌキは、他のイヌ科の種に比べて四肢が短く、ずんぐりした体をしている。接地する後ろ足の指は4本である。イタチ科の足の指は5本であるため、足跡で区別ができる。
見かけやすい場所・時間	主に夜間に活動する。屋久島の低地全体で多く見られる。
防除方法	アライグマ防除で使用するものと同様の箱わなにより捕獲可能である。
防除の取組事例	屋久島では、有害捕獲が進められている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10310.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ PRO NATURE FUND 屋久島に移入されたタヌキの定着化の過程 http://www.nacsj.or.jp/pn/houkoku/h11/h11-no01.html

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

リゾート企業により1970年代に硫黄島に導入されました。鹿児島県では緊急防除種に指定されています。ヘリグロヒメトカゲなどの学術的に貴重な種を捕食する影響が出ています。拡大を防ぐために、できるだけ飼育をしない、飼育する場合は、施設の破損などにより逃げ出すことがないように注意し、生息地域を拡げないようにしましょう。野外で見かけたら、県自然保護課か市町村にお知らせ下さい。

1 基本情報

分類		
目・科名	キジ目キジ科	
種名(亜種名)	インドクジャク	
学名	<i>Pavo cristatus</i>	
環境省カテゴリー	緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	関脇(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	南アジア	
県内初報告	1970年代	
県内への侵入の経緯	リゾート企業により1970年代に導入された	
県内の侵入分布	硫黄島	
全国の侵入分布	鹿児島県硫黄島(大隈諸島)、先島諸島(宮古島、伊良部島、石垣島、小浜島、黒島、新城島、与那国島)で生息が確認されている。宮古島、伊良部島、石垣島、小浜島、黒島、新城島、与那国島では定着しており、個体数が増加している。福島、埼玉、滋賀、三重、愛媛の各県、香川県小豆島にも導入	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、小型ほ乳類、は虫類(トカゲ、小型のヘビ)、昆虫類、植物の芽、種子、果実を食べる。 一夫多妻で、小さな群れをつくる。夜は樹上で休む。	
形態	全長90～130cm。オスの尾羽は2～2.5m。頭は金属光沢のある青色で、扇状の冠のような羽がある。目の上下には白い帯が入る。上胸は青色、背は金属光沢のある緑色、下胸、腹、腰は黒緑色。オスの金属光沢のある緑色の尾には目玉模様がある。	
繁殖形態	一夫多妻でオスはハーレムを形成する。一回の産卵数は6～8個。メスが抱卵と子育てを行う。	
生息環境	低山帯の樹林、草原、農耕地	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①ヘリグロヒメトカゲなどの学術的に貴重な種の捕食。 ②沖縄県では、サトウキビやサツマイモの新芽、野菜類、家畜飼料への食害が確認されている。
県内で特に予想される被害	硫黄島に生息する学術的に貴重な種の捕食。サツマイモなどの野菜類への食害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在。 ②観賞用などで持ち込まれた個体の野生化。
3 対策	
インドクジャクとの関わり方	硫黄島で確認されています。拡大を防ぐために、できるだけ飼育をしない、飼育する場合は、施設の破損などにより逃げ出すことがないように注意し、生息地域を拡げないようにしましょう。野外で見かけたら、県自然保護課が市町村にお知らせ下さい。
見分け方	インドクジャクのオスの尾羽には、特徴的な目玉模様がある。本種に似た在来種は、日本にはいない。
見かけやすい場所・時間	昼間に活動する。主に低山帯の樹林、草原、農耕地など様々な環境に生息する。
防除方法	罠いわなによる捕獲。
防除の取組事例	沖縄県の竹富島、古浜島、黒島では、わなや銃器、探索犬などによる防除を実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/20400.html 日本生態学会編(2002)外来種ハンドブック. 地人書館. 東京 Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 黒島研究所ホームページ 外来種インドクジャクについて http://www.kuroshima.org/pg129.html 八重山毎日新聞 2015年12月16日記事 http://www.y-mainichi.co.jp/news/28971/ 沖縄タイムス 2016年5月13日記事 http://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/30643

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

トカラ列島(中之島、臥蛇島、諏訪之瀬島)、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島で狩猟目的で放鳥されましたが、今は放鳥されていません。県本土では在来種として生息しています。鹿児島県では重要防除種に指定されています。在来植物や小動物への影響、農作物の被害が報告されています。島嶼での侵入・定着状況に関する情報を集めています。島嶼で見かけたら、県自然保護課か市町村にご連絡下さい。

1 基本情報

分類		
目・科名	キジ目キジ科	
種名(亜種名)	キジ	
学名	<i>Phasianus versicolor</i>	
環境省カテゴリー	—	
県カテゴリー	重要防除種	
由来	県内由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内由来外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	本州から九州の屋久島	
県内初報告	1971年と1972年にトカラ列島に放鳥	
県内への侵入の経緯	狩猟を目的に放鳥された	
県内の侵入分布	トカラ列島(中之島、臥蛇島、諏訪之瀬島)、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島	
全国の侵入分布	不明	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、昆虫類、クモ類、軟体動物、植物の芽、葉、種子などを食べる。 平地や山地の草地、農耕地、河原、低山地などに生息し、比較的人間の活動の多い場所に生息する。	
形態	大きさは60cm～80cm。尾が長くて尖っている。オス成鳥は、顔は赤い。胸からの体の下は光沢のある緑色。背は緑色。羽から尾にかけては青灰色。メスは全身が褐色。	
繁殖形態	4～7月に草原、低木林、農耕地周辺の草むらの中に巣をつくる。1回の産卵数は6～12個。メスだけが抱卵する。23～25日で孵化する。	
生息環境	平地や山地の草地、農耕地、河原、低山地などに生息する。	
特記事項	県本土では在来種として生息しています。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来植物や昆虫をはじめとする小動物への影響。 ②農作物への被害。
県内で特に予想される被害	トカラ列島、奄美群島における在来植物や昆虫をはじめとする小動物への影響。農作物への被害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①在来植物や昆虫をはじめとする小動物への影響。 ②狩猟を目的での放鳥。
3 対策	
キジとの関わり方	トカラ列島や奄美群島で狩猟目的で放鳥されましたが、今は放鳥されていません。県では島嶼での侵入・定着状況に関する情報を集めています。島嶼で見かけたら、県自然保護課か市町村にご連絡下さい。
見分け方	類似種のコウライキジのオス成鳥は、首に白い輪がある。また、ヤマドリメスの成鳥は体に赤みがあり、飛翔時は尾が赤く、先端は白く目立っている。
見かけやすい場所・時間	主に昼間に活動する。平地や山地の草地、農耕地、河原、低山地などに生息する。
防除方法	狩猟による捕獲。
防除の取組事例	沖永良部島の知名町では、有害捕獲が進められている。
その他	—
参考資料・参考URL	Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 知名町 有害鳥獣類 知名町鳥獣被害防止計画 http://www.town.china.lg.jp/modules/nousei/index.php?content_id=51 真木・大西(2000)日本の野鳥590. 平凡社. 東京 日本生態学会編(2002)外来種ハンドブック. 地人書館. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

ペットとして飼われていた個体や縁日などで売れ残った幼体が大量に捨てられて野生化しました。鹿児島県では緊急防除種に指定され、県本土各地、種子島、屋久島、奄美群島で確認されています。水生植物への影響や在来カメ類の駆逐などの影響があります。縁日やホームセンターなどでもミドリガメとして売られていますが、寿命が40年もあります。最後まで責任を持って飼い続けることができるか、慎重に考えましょう。

1 基本情報

分類

目・科名	カメ目ヌマガメ科	
種名(亜種名)	ミシシippアカミガメ	
学名	<i>Trachemys scripta elegans</i>	
環境省カテゴリー	緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	関脇(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	北米大陸	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	ペットとして飼われていた個体の遺棄。縁日などで売れ残った幼体の大量遺棄	
県内の侵入分布	県本土各地、種子島、屋久島、奄美群島	
全国の侵入分布	ほぼ日本全国。島嶼でも、ほとんどの主要な有人島に分布	
生態学的特性		
生態	食性は、雑食性で、水生昆虫、ザリガニ、エビ、貝類、魚類、藻類や水草などさまざまなものを食べる。 昼行性で日光浴を好む。他のカメ類の卵も食べる習性がある。	
形態	甲長は20～28cm。メスの方が大型になる。背甲は緑褐色で、各甲板には黄色、黒、緑色などの模様が入る。側頭部には赤い斑紋が入る。	
繁殖形態	交尾は春と秋。産卵は4月から7月。孵化までの日数は65～75日程度。1度の産卵数は2～25個。 オスは伸長した爪をメスの前で震わせて求愛する。メスは地面に巣穴を掘り、卵形の卵を産出する。	
生息環境	多様な水域。底質が柔らかく、水生植物が繁茂する、日光浴に適した陸場の多い穏やかな流れを特に好む。塩分への抵抗力も高く、しばしば汽水域でも見られる。寒冷地や山地を除く、国内のほぼ全域で越冬、繁殖可能。	
特記事項		—

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①餌となる水生昆虫、ザリガニ、エビ、貝類、魚類、藻類や水草などへの影響、在来カメ類の駆逐。
県内で特に予想される被害	餌となる水生昆虫、ザリガニ、エビ、貝類、魚類、藻類や水草などへの影響、在来カメ類の駆逐。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①在来カメ類の駆逐。 ②1975年に、本亜種からいわゆるサルモネラ菌が発見されマスコミで報じられたため、膨大な数が川や池に遺棄された。
3 対策	
ミシシippアカミガメとの関わり方	各地で捨てられて野生化しています。縁日やホームセンターなどでもミドリガメとして売られていますが、寿命が40年もあります。最後まで責任を持って飼い続けることができるか、慎重に考えましょう。
見分け方	ミシシippアカミガメの側頭部には、赤い斑紋が入る。類似種のクサガメには、頭部と側頭部に黒い縁取りのある黄色い断続的なストライプや斑紋がある。また、ニホンイシガメの背甲は扁平で後縁はギザギザになっている。 側頭部の赤い斑紋が最も有効な見分け方である。
見かけやすい場所・時間	晴天時の昼間、川や池の水際で日光浴をしているのが目につく。
防除方法	水域に広く分散して生息するため、効率よく駆除することは困難であるが、以下のトラップで捕獲できる。 ①カニカゴ（最も使いやすい） ②張網（水温が低い時期にも有効） ③遮光型カゴ網（数日間おいておくことが可能） ④日光浴ワナ（週1回程度の見回りで可能） ⑤手どり
防除の取組事例	神戸市の須磨海浜水族園で、野外で捕獲された個体や、飼えなくなった個体の受け入れを行い、「亀楽園」という施設で飼育・研究を行っている。
その他	アカミガメは、生態系などへ被害を及ぼすことが懸念されることから、平成17年の外来生物法の施行に合わせて法律に基づく特定外来生物への指定が検討されたが、「野外での繁殖確認事例が少ないこと」、「大量に飼育されており、指定により野外への大量遺棄が発生するおそれがあること」などの理由から指定が見送られた。しかし、平成27年には、大量に捨てられることなどの影響が出ないような対策を実施した上で、段階的な法規制の導入を行うことなどを検討している。
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/30050.html 内山ほか(2002)日本の両生爬虫類. 平凡社. 東京 Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 神戸市立須磨海浜水族園 http://sumasui.jp/ 環境省「アカミガメ対策推進プロジェクト」の公表について http://www.env.go.jp/press/101292.html 佐藤方博(2012)要注意外来生物による生態系・農業被害防止のためのアカミガメ防除のすすめ方. 認定NPO法人生態工房

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

養殖場からの逸出や遺棄により広がりました。鹿児島県では重要防除種に指定され、屋久島、奄美大島、喜界島、徳之島で確認されています。捕食を通じた無脊椎動物、魚類への影響、自然分布域における養殖個体による在来野生個体群の遺伝的かく乱があります。沖永良部島、与論島などでは侵入が確認されていません。これらの地域では特に逸出などに注意するとともに、見かけたら県自然保護課か市町村にご連絡下さい。

1 基本情報

分類

目・科名	カメ目スッポン科	
種名(亜種名)	ニホンスッポン	
学名	<i>Pelodiscus sinensis</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	重要防除種	
由来	県内由来外来種	

侵略的外来種番付表	前頭(島嶼)
番付表掲載の理由	県内由来外来種
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—

侵入・定着の状況

自然分布域	日本本土・中国大陸
県内初報告	不明
県内への侵入の経緯	養殖場からの逸出、遺棄
県内の侵入分布	屋久島、奄美大島、喜界島、徳之島
全国の侵入分布	大隅諸島(屋久島)、奄美群島(奄美大島、喜界島、徳之島)、沖縄諸島(伊平屋島、沖縄島、久米島)、大東諸島(北大東島、南大東島)、先島諸島(石垣島、西表島、波照間島、与那国島)

生態学的特性

生態	食性は基本的に肉食で、両生類(カエル)、昆虫類、貝類など、多様な動物を捕食する。 昼行性で日光浴をする。産卵時以外は水辺から離れない。
形態	甲長は25～30cm。背甲(はいこう)は柔らかな皮膚に覆われ、他のカメのような固い甲羅にならない。また、背甲は円に近い楕円形。鼻の先端が突出している。
繁殖形態	交尾は4月～6月、産卵は6月上旬～8月下旬。孵化までの日数は40～80日、平均60日程度。1回の産卵数は10～40個。 メスは地面に穴を掘り、球形の卵を産出する。
生息環境	ほぼ完全に水生。河川の中・下流域や池、湖沼などに生息。
特記事項	県本土では在来種として生息しています。

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①捕食を通した無脊椎動物、魚類への影響。自然分布域における、養殖個体による在来野生個体群の遺伝的かく乱。
県内で特に予想される被害	屋久島、奄美大島、喜界島、徳之島における捕食を通した無脊椎動物、魚類への影響。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①捕食を通した無脊椎動物、魚類への影響。 ②養殖場から逃げ出し野生化。
3 対策	
ニホンスッポンを見つけたら	沖永良部島、与論島などでは侵入が確認されていません。これらの地域では特に逸出などに注意するとともに、見かけたら県自然保護課か市町村にご連絡下さい。
見分け方	ニホンスッポンの背甲は非常に平らで丸く、柔らかな皮膚に覆われている。類似種であるクサガメの体色は茶褐色。また、ニホンイシガメの背甲は扁平で黄土色。もしくは黄褐色。いずれも固い甲らとなる。 また、鼻の先端が突出していることが特徴的である。
見かけやすい場所・時間	主に昼間に活動する。河川の中・下流域や池、湖沼などに生息。陸上よりも、水中を泳いでいるところを見るが多い。
防除方法	水域に広く分散して生息するため、効率よく駆除することは困難。魚のアラなどをエサとしたトラップを多数設置することで捕獲が可能とみられる。
防除の取組事例	—
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/30060.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 内山ほか(2002)日本の両生爬虫類. 平凡社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

観葉植物などに紛れて侵入したり、ペットからの逸出や遺棄で広がりました。日本の固有種で奄美群島、沖縄諸島の主要な島嶼では在来種として生息しています。鹿児島県では緊急防除種に指定され、指宿市、屋久島で確認されました。在来種のトカゲと異なる捕食者で、在来節足動物相、生態系、植物網の変質が起こります。指宿市、屋久島など、自然分布域である奄美群島以外の地域で見かけた場合には、県自然保護課か市町村にご連絡下さい。

1 基本情報

分類

目・科名	有鱗目アガマ科	
種名(亜種名)	オキナワキノボリトカゲ	
学名	<i>Japalura polygonata polygonata</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	県内由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内由来外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	奄美群島、沖縄諸島	
県内初報告	指宿市では2003年、屋久島では2012年	
県内への侵入の経緯	観葉植物などに紛れての侵入、ペットとしての流通と購入後の逸出、遺棄など	
県内の侵入分布	指宿市、屋久島	
全国の侵入分布	宮崎県日南市、鹿児島県指宿市、屋久島に定着	
生態学的特性		
生態	食性は虫食性で、昆虫などの小動物を捕食する。 昼行性で、原産地では落ち葉・枯れ枝・岩の隙間・木の根元に隠れて越冬する。天敵は猛禽類やヘビ類。主に樹上性だが、地上にも降りる。	
形態	全長約20～30cm。頭部・胴部背面に凹凸のある鱗が不規則にならび、鼓膜は皮下に埋もれて露出しない。四肢や尾は細長く、指にはかぎ爪が発達している。オスの成体は全身緑みを帯び、胴部は側扁し、頭尾方向に走る黄色い帯状斑を持つ。メス成体や幼体では緑みは弱く、胴部は側扁せず黄色い帯状斑も見られない。	
繁殖形態	一腹卵数は1～4個。4月～8月に浅い土の中に産卵する。	
生息環境	林縁部の日陰部分によく見られる。山地にも人家付近にも見られる。	
特記事項	日本の固有種で奄美群島、沖縄諸島の主要な島嶼では在来種として生息しています。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来のトカゲ類と異なる捕食者であり、捕食を通した在来節足動物相、生態系、食物網の変質。
県内で特に予想される被害	指宿市、屋久島の在来節足動物相、生態系の変質。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①在来節足動物相の捕食。 ②飼われていたものの逸出。
3 対策	
オキナワキノボリトカゲを見つけたら	指宿市、屋久島に侵入しています。これらの地域を含め、自然分布域である奄美群島以外の地域で見かけた場合には、県自然保護課か市町村にご連絡下さい。
見分け方	オキナワキノボリトカゲは、全長約20～30cmで、オスの成体は全身緑みを帯びている。メス成体や幼体は緑みは弱い。 自然分布域である奄美群島以外に、本種のようなトカゲ類は生息していない。
見かけやすい場所・時間	主に昼間に活動する。林縁部の日陰部分によく見られる。山地にも人家付近にも見られる。
防除方法	粘着トラップやペットボトルトラップが有効と思われる。
防除の取組事例	宮崎県日南市では、平成21年度～23年度にかけて、オキナワキノボリトカゲの生態や繁殖の実態などについて調査を実施し、「九州本土に侵入・定着したオキナワキノボリトカゲに関する研究成果報告書」を出している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/30280.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 日南市市民部協働課(2012)九州本土に侵入・定着したオキナワキノボリトカゲに関する研究成果報告書. 日南市市民部協働課. 宮崎内山ほか(2002)日本の両生爬虫類. 平凡社. 東京

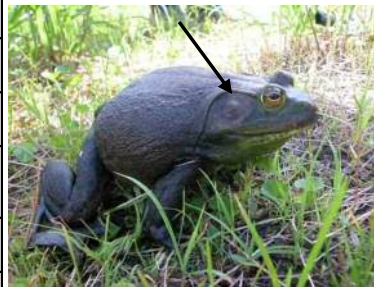
鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

食用として養殖されていた個体が逸脱、遺棄されたりして広がりました。鹿児島県では重要防除種、環境省では特定外来生物に指定され、県本土各地、奄美大島、与路島、徳之島、沖永良部島で確認されています。両生類、昆虫類、甲殻類などの捕食が確認されています。ウシガエルの幼生や卵を見かけた場合は、可能であれば除去して下さい。また、未定着の島嶼で見かけたり、声を聞いたりした場合は、県自然保護課か市町村にご連絡下さい。

1 基本情報

分類

目・科名	無尾目アカガエル科	
種名(亜種名)	ウシガエル	
学名	<i>Lithobates catesbeianus</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 重点対策外来種	
県カテゴリー	重要防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(島嶼)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	北米	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	食用として輸入し、養殖されていた個体の逸出、遺棄	
県内の侵入分布	県本土各地、奄美大島、与路島、徳之島、沖永良部島	
全国の侵入分布	北海道南部、本州以南の日本列島のほぼ全域と周辺島嶼(佐渡島、壹岐、五島列島など)、奄美諸島(奄美大島、与路島、徳之島、沖永良部島)、沖縄諸島(伊平屋島、伊是名島、伊江島、沖縄島、久米島)八重山諸島(小浜島、西表島)	
生態学的特性		
生態	食性は肉食で、口に入る大きさであればほとんどの動物を捕食する。 夜行性。昼間は水草の中や水場周辺の茂みや窪地に隠れる。	
形態	体長111～183mm。体重139～183g。 大型でみずかきが良く発達する。眼の後ろの鼓膜が大きく、よく目立つ。	
繁殖形態	池、沼などでオスは繁殖なわばりを持ち、水面に浮きながら「ウオー、ウオー」と鳴く。産卵は水草の多い所でなされ、産出された卵塊はシート状になって浮かぶ。オタマジャクシは越冬し、15cmほどに達する。繁殖期は5～9月上旬。	
生息環境	池や沼、穏やかな流れの周辺。在来のカエル類に比べ水場への依存が強く、成体は1年中池で見られる。	
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。また、卵やオタマジャクシも飼育できません。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①カエルとしては大型であり、さまざまな動物を捕食する。そのため、特に昆虫類、両生類、甲殻類などの生物群集への影響が大きい。
県内で特に予想される被害	餌となる両生類、昆虫類、甲殻類などの生物群集への影響。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①高い繁殖能力、高い環境適応力。 ②1918年に当時の政府がアメリカから導入。食肉用として全国に養殖を奨励した。太平洋戦争中に閉鎖された養殖場から逃げ出した個体が野生化した。
3 対策	
ウシガエルを見つけたら	未定着の島嶼で見かけたり、声を聞いたりした場合は、県自然保護課か市町村にご連絡下さい。ウシガエルの幼生や卵を見つけた場合は、可能であれば除去して下さい。
見分け方	ウシガエルの体長111～183mm。大型でみずかきが良く発達する。成体は他のカエルと大きさが全く異なるので区別できる。ウシガエルの幼体に似ているトノサマガエルの体長38～94mm。ウシガエルは、幼体も目の後ろの鼓膜が大きくよく目立つ。また、鳴き声は、「ウオー、ウオー」と特徴的であるため、鳴き声でも生息が分かる。
見かけやすい場所・時間	夜行性で、昼間は水草の中や水場周辺の茂みや窪地に隠れる。池や沼、穏やかな流れの周辺に生息。成体は警戒心が強く、見かけることは少ないが、夜間に大きな声で鳴くため生息が分かる。
防除方法	個体を取り除く方法が現実的。成体は警戒心が強く捕獲しにくい、夜間の方が効率よく捕獲できる。幼生や卵の除去も効果的である。幼生越冬し、成体になるまで約1年間を要するため、繁殖期が終わってから翌春までの間に池の干し上げを行えば幼生を全滅できる。
防除の取組事例	小笠原諸島の弟島では、2004年からウシガエルの防除を行い、2008年に根絶したと考えられている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/40020.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 環境省 小笠原自然情報センター 弟島のトンボを守る取組 http://ogasawara-info.jp/sizenwomamorutorikumi/gutaitekiniha.html 愛媛県 愛媛県外来生物対策マニュアルについて http://www.pref.ehime.jp/h15800/1191961_1934.html 内山ほか(2002)日本の両生爬虫類。平凡社。東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

建築資材などに紛れ込んで侵入しました。鹿児島県では緊急防除種、環境省では特定外来生物に指定され、鹿児島市喜入中名町、和泊町で確認されています。神経毒を持っており、咬傷被害のおそれがあります。セアカゴケグモを見かけたら、決して触らずに、県自然保護課または市町村までお知らせ下さい。

1 基本情報

分類

目・科名	クモ目ヒメグモ科	
種名(亜種名)	セアカゴケグモ	
学名	<i>Latrodectus hasselti</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	大関(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	オーストラリア～南太平洋諸島	
県内初報告	2008年12月確認	
県内への侵入の経緯	建築資材などに紛れ込んで侵入した	
県内の侵入分布	鹿児島市喜入中名町、和泊町(2018年2月)	
全国の侵入分布	北海道、青森県、秋田県、山形県、栃木県、新潟県、富山県、長野県、山梨県、鳥取県、大分県以外の都府県	
生態学的特性		
生態	食性は虫食性で、昆虫などを捕食する。 穴や隙間に不規則な網を張る。性質はおとなしい。脅かされると、すぐに巣から落下して擬死する。	
形態	メスは約7～10mm。全体がやや光沢のある黒色であり、腹部背面には赤い菱形が2つ縦に並んだ様な縞模様が特徴的である。腹部には砂時計状の赤い斑紋がある。 オスは約4～5mm。小型で細く褐色で、腹部の背面は灰白色で中央に白い斑紋があり、その両側に黒紋が2列に並んでいる。	
繁殖形態	1卵嚢(らんのう: 卵を包んでいる袋)あたりの卵数は50～200個。1匹のメスの巣に最大6個が卵嚢が見つかった。	
生息環境	日当たりが良く暖かい場所、餌となる虫の多い場所、巣を作るための隙間がある場所を好む。	
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	③神経毒を持ち、咬傷被害のおそれがある。
県内で特に予想される被害	咬傷被害のおそれあり。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①神経毒を持つ。 ②資材などに紛れ込んで侵入。
3 対策	
セアカゴケグモを見つけたら	セアカゴケグモを見かけたら、県自然保護課または市町村までお知らせ下さい。神経毒を持っているので、触らないで下さい。
見分け方	セアカゴケグモのメスは、全体がやや光沢のある黒色であり、腹部背面には赤い菱形が2つ縦に並んだ様な縞模様が特徴的である。腹部には砂時計状の赤い斑紋がある。 類似種のジョロウグモは、セアカゴケグモと違い、腹部に黄と緑青色の荒い横縞があるので区別ができる。
見かけやすい場所・時間	1.花壇まわりにあるブロックのくぼみや穴 2.自転車の車輪(スポークの間) 3.自動車のバンパーの裏やタイヤまわり 4.排水溝のフタの裏側 5.排水溝のグレーチング(鋼製の網目状になったフタ)の網目 6.クーラーなどの室外機や自動販売機の裏側、隙間 7.長期間放置された空き缶の中 8.公園などにあるベンチの裏側や脚部 など
防除方法	成体は、市販の殺虫剤(スプレー缶)を使用して防除できます。また、湯をかけたり、踏みつけるのも有効です。 クモの卵は卵嚢(らんのう:卵を包んでいる袋)の状態であるため、殺虫剤の効果が薄く、効かない場合もありますので、踏みつぶす又は焼却による方法で防除しましょう。
防除の取組事例	鹿児島県のホームページの特定外来生物「ハイロゴケグモ」「セアカゴケグモ」に注意しましょう！で注意喚起を行っている。
その他	—
参考資料・参考URL	鹿児島県ホームページ 特定外来生物「ハイロゴケグモ」「セアカゴケグモ」に注意しましょう！ http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/gokegumo.html 国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70020.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 環境省 外来生物対策-セアカゴケグモ・ハイロゴケグモについて http://kyushu.env.go.jp/wildlife/mat/m_2_8.html 大阪府 セアカゴケグモについて http://www.pref.osaka.lg.jp/kankyoeisei/seaka/

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

コンテナなどに付着して侵入した可能性が高いです。鹿児島県では緊急防除種、環境省では特定外来生物に指定され、鹿児島市、霧島市、志布志市、西之表市、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島で確認されています。神経毒を持っており、咬傷被害のおそれがあります。ハイイロゴケグモを見かけたら、決して触らずに、県自然保護課または市町村までお知らせ下さい。

1 基本情報

分類

目・科名	クモ目ヒメグモ科	
種名(亜種名)	ハイイロゴケグモ	
学名	<i>Latrodectus geometricus</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	大関(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	アフリカ	
県内初報告	2001年鹿児島市ほか7カ所で確認	
県内への侵入の経緯	コンテナなどに付着して侵入してきた可能性が高い	
県内の侵入分布	鹿児島市、霧島市、志布志市、西之表市、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島	
全国の侵入分布	東京、神奈川、愛知、京都、大阪、兵庫、岡山、山口、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄	
生態学的特性		
生態	食性は虫食性で、主に昆虫類を捕食する。穴や隙間に不規則な網を張る。網に落下してきた昆虫類を捕食する。攻撃性は比較的弱いとされている。	
形態	メスは7～10mm。オスは6～8mm。白から黒まで体色には変異がある。卵嚢(らんのう:卵を包んでいる袋)は薄黄色でコンペイトウ状である。他のゴケグモ属の白くスムーズな卵嚢と区別できる。	
繁殖形態	1卵嚢(らんのう:卵を包んでいる袋)あたりの卵数は130個前後。1匹のメスの巣で最大18個の卵嚢が見つかった。	
生息環境	日当たりが良く暖かい場所、エサとなる虫の多い場所、巣を作るための隙間がある場所を好みます。	
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	③神経毒を持ち、咬傷被害のおそれがある。セアカゴケグモよりも攻撃性は弱いと言われている。
県内で特に予想される被害	咬傷被害のおそれあり。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①神経毒を持つ。 ②資材などに紛れ込んで導入。
3 対策	
ハイイロゴケグモを見つけたら	ハイイロゴケグモを見かけたら、県自然保護課または市町村までお知らせ下さい。神経毒を持っているので、触らないで下さい。
見分け方	ハイイロゴケグモは、白から黒まで体色には変異がある。類似種のジョロウグモは、ハイイロゴケグモと違い、腹部に黄と緑青色の荒い横縞があるので区別ができる。また、卵囊(らんのう:卵を包んでいる袋)は薄黄色でコンペイトウ状であるため、他のゴケグモ属の白くスムーズな卵囊と区別できる。
見かけやすい場所・時間	1.花壇まわりにあるブロックのくぼみや穴 2.自転車の車輪(スポークの間) 3.自動車のバンパーの裏やタイヤまわり 4.排水溝のフタの裏側 5.排水溝のグレーチング(鋼製の網目状になったフタ)の網目 6.クーラーなどの室外機や自動販売機の裏側、隙間 7.長期間放置された空き缶の中 8.公園などにあるベンチの裏側や脚部 など
防除方法	成体は、市販の殺虫剤(スプレー缶)を使用して防除できます。また、湯をかけたり、踏みつけるのも有効です。 クモの卵は卵囊(らんのう:卵を包んでいる袋)の状態であるため、殺虫剤の効果が薄く、効かない場合もありますので、踏みつぶす又は焼却による方法で防除しましょう。
防除の取組事例	鹿児島県のホームページの特定外来生物「ハイイロゴケグモ」「セアカゴケグモ」に注意しましょう！で注意喚起を行っている。
その他	—
参考資料・参考URL	鹿児島県ホームページ 特定外来生物「ハイイロゴケグモ」「セアカゴケグモ」に注意しましょう！ http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/gokegumo.html 国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70130.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 環境省 外来生物対策-セアカゴケグモ・ハイイロゴケグモについて http://kyushu.env.go.jp/wildlife/mat/m_2_8.html 鹿児島市 特定外来生物「ハイイロゴケグモ」にご注意 https://www.city.kagoshima.lg.jp/kenkofukushi/chouju/kenkosoumu/kurashi/sekatsukankyo/gaichu/kumo.html

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

樹木などの移植の際に土やたい肥などに、卵や幼体が紛れて侵入したと考えられています。鹿児島県では一般防除種に指定され、県本土各地、屋久島、奄美群島で確認されています。生態系への影響は不明です。繁殖力が強く、おびただしい数で移動したり、ブロック塀や壁をよじ登ったり、家屋の中に侵入したりすることから、強い不快感を与えます。また、防除のための薬剤散布により、他の節足動物への影響が懸念されています。定着している地域から未侵入の地域に、土の付いた植物などを持ち込むと、一緒に運ばれて侵入するおそれがありますので、十分注意しましょう。また、未侵入の地域でヤンバルトサカヤスデを見かけたら、県廃棄物・リサイクル対策課または市町村まで連絡をして下さい。

1 基本情報

分類		
目・科名	オビヤスデ目ヤケヤスデ科	
種名(亜種名)	ヤンバルトサカヤスデ	
学名	<i>Chamberlinius hualienensis</i>	
環境省カテゴリー	その他の総合対策外来種	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	台湾	
県内初報告	初記録年は徳之島 1991年、奄美大島 1992年、鹿児島県本土 1999年、屋久島 2002年	
県内への侵入の経緯	棲息地からの鉢物(観葉植物・花卉類)導入時や樹木などの移植の際に土やたい肥などに、卵、幼体、成体が紛れて侵入	
県内の侵入分布	県本土各地、屋久島、奄美大島、加計呂間島、与路島、請島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島	
全国の侵入分布	埼玉県、神奈川県、静岡県、徳島県、鹿児島県本土各地、八丈島、屋久島、奄美群島、沖縄島	
生態学的特性		
生態	食性は、たい肥、腐葉などを餌にする腐植食。 昼間は直射光を避け遮蔽物(石、木材、板状資材、鉢など)の下部に潜み、夜間に活動する。雨上がりの蒸し暑い日に集団で移動。集団移動時期は本土地域では8月～12月頃、奄美地域では年2回あり、亜成体の移動が5月～6月頃、成体の移動が10月～12月頃に起こる。	
形態	体長25～30mm。体は細く、堅い外骨格である数十個の節に分かれている。前の3節には1節に1対ずつ、それより後ろの節は1節に2対ずつの足がある。体の色は黄褐色で、黒褐色の縞模様がある。	
繁殖形態	交尾期は本土地域では11月～12月、奄美地域では10月～11月で、交尾後約1ヶ月で産卵する。 卵→幼体→亜成体→成体と発育し、寿命は約1年半。	
生息環境	餌となる落ち葉などがある場所や日当たりの悪い湿気がある場所を好む。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①不快害虫であり、生態系への影響は不明。 ③人に害を及ぼすことはないが、繁殖力が強く、おびただしい数で移動したり、ブロック塀や壁をよじ登ったり、家屋の中に侵入したりすることから、強い不快感を与える。 不快害虫：人間や作物などを害するものではないが、形の気味悪さや大発生などで嫌がられる虫のこと。
県内で特に予想される被害	防除のための薬剤散布により他の土壌性小動物や、歩行性昆虫など他の節足動物への影響が懸念される。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①不快害虫。 ②樹木などの移植の際に土やたい肥などに、卵や幼体が紛れて侵入。
3 対策	
ヤンバルトサカヤスデを見つけたら	未侵入の地域でヤンバルトサカヤスデを見かけたら、県廃棄物・リサイクル対策課または市町村まで連絡をして下さい。 すでに侵入している地域から未侵入の地域に、土の付いた植物などを持ち込むと、一緒に運ばれて侵入するおそれがありますので、十分注意しましょう。
見分け方	ヤンバルトサカヤスデは、在来種のヤケヤスデより大きく、体長25～30mmで黄褐色～茶褐色である。類似種である在来種のヤケヤスデは、体長20mm以下で黒褐色である。
見かけやすい場所・時間	昼間は直射光を避け遮蔽物(石、木材、板状資材、鉢など)の下部に潜み、夜間に活動する。餌となる落ち葉などがある場所や日当たりの悪い湿気がある場所を好む。
防除方法	駆除方法 ヤンバルトサカヤスデの幼体は成体に比べ日光や乾燥、物理刺激に対しても弱いので、幼体の多い時期(本土地域：1月～8月頃、奄美地域：11～6月頃)に、休耕田畑や棲息草地、たい肥の掘り起こしや除草を行いましょう。薬剤散布時期は、地表で活動する時期(本土地域：7月頃～、奄美地域：4月頃～)が効果的です。 侵入防止 ヤスデは高い所から低い所へ移動する傾向があり、表面がツルツルした所は進めません。農業用のアゼシートを活用した移動阻止柵を、山裾などの林地と住宅地との境界に作ることで、侵入を防止することができます。また、紙製のガムテープやステンレス板を家屋の周りに貼ることで侵入を防止できます。また、家屋の周りに薬剤を散布しておくことで侵入を防止できます。 環境整備 餌となる落葉などのある所や、日当たりの悪い湿気のある場所など、ヤンバルトサカヤスデの生息しにくい環境を作ることが重要です。
防除の取組事例	鹿児島県では、平成6年度から、まん延防止のためのリーフレットの作成、配布、ヤスデの効果的な駆除方法の研究、薬剤の研究・開発などを行っている。特に、平成11年度以降は、大学や民間の研究者などを委員とする「ヤンバルトサカヤスデ対策検討委員会」を開催するなど、まん延防止対策の普及啓発に努めている。 出水市、南さつま市、奄美市などの市町村では、ヤンバルトサカヤスデ駆除剤の購入に対する助成金制度を実施している。
その他	鹿児島県のホームページに、ヤンバルトサカヤスデまん延防止リーフレットがありますので、参考にしてください。

参考資料・参考URL	鹿児島県ホームページ ヤンバルトサカヤスデ対策 http://www.pref.kagoshima.jp/kurashi-kankyo/kankyo/yasude/index.html 国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70490.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 鹿児島市 ヤンバルトサカヤスデのまん延防止 http://www.city.kagoshima.lg.jp/kankyo/kankyo/eisei/kurashi/sekat-sukankyo/gaichu/yasude.html 出水市 出水市ヤンバルトサカヤスデ駆除剤購入助成金交付要綱 http://www.city.izumi.kagoshima.jp/reiki_int/reiki_honbun/r334RG00001073.html
-------------------	---

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

食用として導入されました。鹿児島県では緊急防除種に指定され、奄美群島で確認されています。固有陸産貝類との競合や野菜などの農作物への被害、寄生虫の感染(広東住血線虫)が確認されています。現在、奄美群島以外には定着していないと考えられています。もし、奄美群島以外で見かけたら、国の植物防疫所、病害虫防除所、各市町村に連絡して下さい。

1 基本情報

分類		
目・科名	柄眼目アフリカマイマイ科	
種名(亜種名)	アフリカマイマイ	
学名	<i>Achatina fulica</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	関脇(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	東アフリカ	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	食用で導入、園芸植物に付着	
県内の侵入分布	奄美群島	
全国の侵入分布	小笠原諸島、沖縄島、奄美群島、宮古島、八重山諸島	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、落ち葉や生葉、動物の死骸、菌類などを食べる。基本的に夜行性。乾燥耐性が極めて強い。	
形態	殻高15cm以上に達する陸産貝類。 殻色は普通赤褐色で縦に黄色の縞模様が入るが、環境により色彩変異がある。	
繁殖形態	年間を通して、気温20℃以上では100から1,000個の卵を約10日間周期で年何回も産卵する。繁殖力が高い。雌雄同体だが自家受精できない。	
生息環境	亜熱帯～温帯の畑地に隣接した草むらや林縁の藪など。	
特記事項	植物防疫法における検疫有害動植物である。 検疫有害動植物:まん延した場合に有用な植物に損害を与えるおそれがある有害動植物	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①固有陸産貝類との競合。 ②野菜などの農作物への被害。 ③寄生虫の感染(広東住血線虫)
県内で特に予想される被害	県内の固有陸産貝類との競合。野菜などの農作物への被害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①固有陸産貝類の捕食。 ②食用で導入。園芸植物に付着。
3 対策	
アフリカマイマイを見つけたら	奄美群島以外には定着していないと考えられています。もし、奄美群島以外で見かけたら、国の植物防疫所、病害虫防除所、各市町村にご連絡下さい。
見分け方	殻高15cm以上に達する陸産貝類であり、アフリカマイマイの大きさと類似する陸産貝類はいない。
見かけやすい場所・時間	基本的に夜行性で、畑地に隣接した草むらや林縁の藪などに生息する。
防除方法	拾い取りや林縁部などを狙ったメタアルデヒド剤など薬剤の散布などによる集中的防除など。
防除の取組事例	沖縄県では、5月～7月にかけて、そ菜類などの栽培ほ場及びその周辺地域を対象に、なめくじ駆除剤(メタアルデヒド3.2～3.5%)をヘクタール当たり7kgの基準で2回散布し、防除を行っている。 東京都では、母島を中心に、農地周りにおける薬剤(メタアルデヒド剤)による一斉防除、農業地域内の都道や農道周辺で、拾い取りによる防除を実施を実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70250.html 財団法人自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社. 東京 Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 沖縄県 病害虫防除技術センター アフリカマイマイの防除 http://www.pref.okinawa.jp/mibae/maimai/ 東京都小笠原支庁 アフリカマイマイ等指定病害虫防除 http://www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogasawara/guidance/industry_bug.html

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

園芸植物に紛れて侵入しました。鹿児島県では緊急防除種、環境省では特定外来生物に指定され、奄美大島、徳之島で確認されています。固有陸産貝類の捕食・絶滅のおそれがあります。ニューギニアヤリガタリクウズムシを見つけたら、県自然保護課または市町村まで連絡をして下さい。

1 基本情報

分類		
目・科名	三岐腸目ヤリガタリクウズムシ科	
種名(亜種名)	ニューギニアヤリガタリクウズムシ	
学名	<i>Platydemus manokwari</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	小結(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	パプアニューギニア	
県内初報告	2015年10月	
県内への侵入の経緯	園芸植物に紛れて侵入	
県内の侵入分布	奄美大島、徳之島	
全国の侵入分布	琉球列島(奄美大島、沖縄島、久米島、宮古島、伊良部島、伊計島、平安座島)、小笠原諸島(父島)	
生態学的特性		
生態	食性は肉食で、カタツムリ類を捕食する。夜行性で、主に雨の日に活動。地上性だが、木にも登る。	
形態	体長40～65mmの陸生プラナリア。背面は黒褐色で、細い白い線が縦に入る。腹面は淡灰色。頭部が後部よりも細い。	
繁殖形態	不明	
生息環境	温暖な地域の森林、草原。	
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はありません。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①固有陸産貝類の捕食、絶滅。
県内で特に予想される被害	固有陸産貝類の捕食、絶滅。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①固有陸産貝類の捕食、絶滅。 ②園芸植物に付着。
3 対策	
ニューギニアヤリガタリクウズムシを見つけたら	奄美大島への侵入が確認されています。ニューギニアヤリガタリクウズムシを見つけたら、県自然保護課または市町村まで連絡をして下さい。
見分け方	ニューギニアヤリガタリクウズムシは、体長40～65mmの陸生プラナリア。背面は黒褐色で、細い白い線が縦に入る。本種に似た陸生プラナリアは生息していない。
見かけやすい場所・時間	夜行性で、森林・草原に生息する。
防除方法	効果的な防除方法は確立されていない。 小笠原諸島では、拡散を防止するために、靴の泥を落とす、洗った靴を海水に浸す、港に泥落としマットを設置したりして、他の地域へ拡げないようにしている。
防除の取組事例	東京都では、東京都小笠原支庁のホームページにて「ニューギニアヤリガタリクウズムシの拡散を防止するために」を作成し、拡散の防止を行っている。
その他	定着すると根絶は極めて難しい。島を行き来する資材や人間の鞋底の洗浄を行い、土壌の移動を制限することで、他の地域への分布をこれ以上拡大させないことが重要である。
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70240.html 財団法人自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社. 東京 Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 東京都小笠原支庁ホームページ ニューギニアヤリガタリクウズムシの拡散を防止するために http://www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogasawara/nature/grapple_platydemusmanokwari.html 奄美新聞 2015年10月5日 記事 http://amamishimbun.co.jp/index.php?QBlog-20151005-1

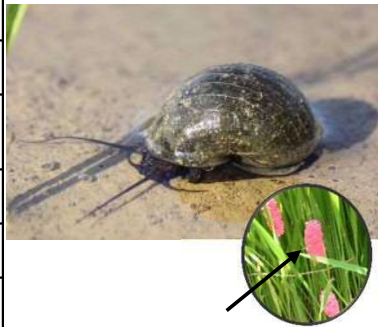
鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

食用や園芸植物に付着して侵入しました。通称ジャンボタニシと呼ばれています。鹿児島県では緊急防除種に指定され、島嶼を含む県内全域で確認されています。淡水性貝類との競合やイネへの被害、寄生虫の感染(広東住血線虫)が確認されています。自分の水田などで見つけたら、できるだけ防除をして下さい。

1 基本情報

分類

目・科名	盤足目リンゴガイ科	
種名(亜種名)	リンゴガイ類	
学名	<i>Pomacea canaliculata</i> (スクミリンゴガイ)	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	関東(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	アルゼンチン	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	食用で導入されたり、園芸植物に付着	
県内の侵入分布	島嶼を含む県内全域	
全国の侵入分布	関東以南各地	
生態学的特性		
生態	食性は主に植物食であるが、動物の死骸や菌類も食べる。エラと肺様器官を持ち、水中ではエラ呼吸、空気中では肺呼吸する。雨の日などは畦も横断する。乾燥した条件では口蓋を閉じて代謝を下げ、長期間生存する。 低温耐性は低く、0℃で25日、-6℃で24時間以内に死亡。冬季は土に潜る。	
形態	殻高5cm以上になる大型の巻き貝。最大で8cmほどになる。殻の形状はタニシ様で、赤褐色の帯が10～15本ある。植物や水路の壁にピンク色の卵を生む。	
繁殖形態	メスが夜間水上に出て植物体や水路壁にピンク色の卵塊を生む。1卵塊に200～300卵程度で、産卵頻度は3～4日に一度。約10日で孵化し、2ヶ月程度で成体になる。繁殖期は特に無い。雌雄異体。	
生息環境	淡水性で水田、水路、ため池などに生息する。	
特記事項	通称ジャンボタニシと呼ばれている。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①淡水性貝類との競合。 ②イネへの食害。 ③寄生虫の感染(広東住血線虫)
県内で特に予想される被害	淡水性貝類との競合。イネへの被害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①繁殖能力の高さ。 ②食用での導入。園芸植物に付着。
3 対策	
リンゴガイ類を見つけたら	自分の水田などで見つけたら、できるだけ防除をして下さい。
見分け方	スクミリンゴガイは、殻高5cm以上になる大型の巻き貝。最大で8cmほどになる。また、卵は特徴的で、鮮紅色の卵塊を生む。類似種であるタニシの殻高は1cm～8cm程度であるが、5cm以下の種が多く、スクミリンゴガイ程大きくない。
見かけやすい場所・時間	淡水性で水田、水路、ため池などに生息する。
防除方法	水田の取水口に網を設置することで分布拡大を防止・低減できる。苗の水田への移植時期を早める、稚苗でなく中苗～成苗を移植する、水深の管理、冬季の耕起、農薬(石灰窒素、IBP粒剤、カルタップ粒剤、ベンスルタップ粒剤、エチルチオメトン・チオシクロラム粒剤)、天敵導入(餌付けしたアヒル)、銅資材による産卵防止(銅網・銅テープなど)など。
防除の取組事例	九州沖縄農業研究センターのホームページにもスクミリンゴガイのサイトがあり、詳しい防除方法なども掲載している。 千葉県、神奈川県高座郡寒川町、愛知県小牧市などではホームページにスクミリンゴガイについてのサイトを作成している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70310.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 九州沖縄農業研究センターホームページ スクミリンゴガイ http://www.naro.affrc.go.jp/karc/applesnail/ 千葉県ホームページ スクミリンゴガイの防除対策について https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/network/h22-fukyu/gaicyu05.html 財団法人自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

ウシガエルの餌として神奈川県に導入され、その一部が逸出して全国に広まりました。鹿児島県では重要防除種に指定され、県本土各地、甕島、奄美大島、沖永良部島で確認されています。水生動物を捕食し、生物多様性を低下させる影響が確認されています。飼っている場合は、最後まで責任を持って飼い続け、途中で絶対に捨てないようにしましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	十脚目アメリカザリガニ科	
種名(亜種名)	アメリカザリガニ	
学名	<i>Procambarus clarkii</i>	
環境省カテゴリー	緊急対策外来種	
県カテゴリー	重要防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	小結(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	北米南部	
県内初報告	1967年頃の別府川に生息していた記録がある	
県内への侵入の経緯	人による持ち込みか隣県からの水系を介しての侵入	
県内の侵入分布	県本土各地、奄美大島、沖永良部島	
全国の侵入分布	全国	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、小魚、水生昆虫などの小動物、動物の死骸、水草などを食べる。水深が浅く、水底が泥のような場所を好む。抱卵したメスや冬の間は粘土質の湿地に穴を掘って生活をする。	
形態	体長最大15cm。 若い個体の体色は淡褐色～黄褐色、成熟すると赤色～赤褐色になる。	
繁殖形態	繁殖期は6～10月で、孵化した幼体は、4～5回脱皮を行うまではメスの腹肢に付いたまま生活する。	
生息環境	湖や沼、流れの緩やかな河川、ため池、水田、水路、公園の池など。	
特記事項	—	

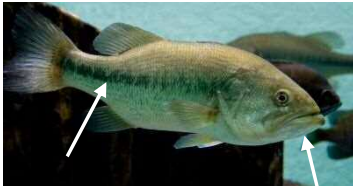
2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①他の水生動物の捕食。捕食による食物連鎖を通じて、水辺環境を大きく改変し、生物多様性を低下させる。 ②水田でイネを食害したり、畦に穴をあける。
県内で特に予想される被害	水生動物の捕食。生物多様性の低下。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①水生動物の捕食。 ②人による持ち込みか隣県からの水系を介しての侵入。
3 対策	
アメリカザリガニを見つけたら	飼っている場合は、最後まで責任を持って飼い続け、途中で絶対に捨てないようにしましょう。
見分け方	鹿児島県内には他のザリガニ類は生息しないため、見間違えることはない。
見かけやすい場所・時間	基本的に夜行性である。湖や沼、流れの緩やかな河川、ため池、水田、水路、公園の池などに生息する。水質汚濁への耐性が高く、汚れた水でも生息する。
防除方法	水抜きやかごわなによる防除。
防除の取組事例	神奈川県自然環境保全センターでは、アメリカザリガニを駆除する目的で、センター内の自然観察園内でザリガニ釣りを実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70320.html 財団法人自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社. 東京 Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 福田晴夫・木尾薩己(1986)鹿児島県のアメリカザリガニについて. 鹿児島県立博物館研究報告(第5号):1~8 https://www.pref.kagoshima.jp/bc05/hakubutsukan/shien/documents/6329_20120215152220-1.pdf 神奈川県ホームページ ザリガニ釣りのご案内 http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5825/p672473.html

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

食用および釣りの対象魚として導入され、その後、(釣りの対象魚として)ダム湖を中心に放流されました。鹿児島県では緊急防除種、環境省では特定外来生物に指定され、県本土各地、種子島で確認されています。肉食性で、両生類、魚類などを捕食し、生態系全体への影響が出ています。生きたまま運搬することや飼育することは外来生物法で禁止されています。釣れた場合などは、リリース(再放流)せずに、安楽死させて持ち帰るか、その場に穴を掘って埋めましょう。外来魚回収ボックスが設置されていたらそれを活用しましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	スズキ目 サンフィッシュ科	
種名(亜種名)	オオクチバス	
学名	<i>Micropterus salmoides</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	大関(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100	

侵入・定着の状況	
自然分布域	北米大陸
県内初報告	1986年
県内への侵入の経緯	1968年に薩摩湖に放流された。
県内の侵入分布	県本土各地、種子島
全国の侵入分布	ほぼ全国。隠岐・佐渡など一部島嶼を含む。

生態学的特性	
生態	食性は肉食で、魚類、両生類などを多岐にわたり捕食する。主に湖やダム湖、ため池、流れの緩やかな河川などに生息する。流木や水生植物の繁茂した場所など、障害物があるところでよく見られる。
形態	全長30～50cm。口は大きく、下あごがやや突出する。体には、えらの後方から尾びれの付けねにかけて、黒色の縦縞がある。
繁殖形態	繁殖は、水温16～20℃前後になる春～初夏にかけて行われる。オスが作ったすり鉢状の巣で産卵が行われ、卵および孵化後の稚魚はオスが保護する。
生息環境	ダム湖、天然湖沼、小規模なため池から河川中～下流域、汽水域に至る多様な水域。
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①肉食性であり、魚類、両生類などを多岐にわたり捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。 ②琵琶湖では、在来魚が減り、内水面漁業に影響が出ている。
県内で特に予想される被害	県内の両生類、魚類などの捕食。生態系全体への影響が懸念される。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①両生類、魚類などの捕食。生態系全体への影響。 ②食用及び釣りの対象魚としての導入。釣りの対象魚として放流。
3 対策	
オオクチバスを見つけたら	生きたまま運搬することや飼育することは外来生物法で禁止されています。釣れた場合などは、リリース(再放流)せずに、安楽死させて持ち帰るか、その場に穴を掘って埋めましょう。外来魚回収ボックスが設置されていたらそれを活用しましょう。
見分け方	オオクチバスは、全長30～50cm。口は大きく、下あごがやや突出する。体には、えらの後方から尾びれの付けねにかけて、黒色の縦縞がある。下流域や汽水域に生息するスズキに似るが、スズキは体高が低く、口の先端が尖り、体側にごく小さな斑点を除き模様がなない。島嶼ではオオクチユゴイに似るが、オオクチユゴイは尾びれの上下に大きな黒斑がある。
見かけやすい場所・時間	活動時間は日中。山上湖、ダム湖、平地の天然湖沼、小規模なため池の、水面に樹木がせり出した場所や、水中の物陰。
防除方法	稚魚のすくい取り、産卵床の破壊、人工産卵床の設置、地引き網など。
防除の取組事例	滋賀県では、滋賀県漁業調整規則による罰則規定がある。また、琵琶湖で漁業者による外来魚の防除を行っている。 秋田県では、美郷町「大谷地沼ため池」や八郎湖でブラックバスをはじめとした外来魚の防除を行っている。 環境省により、オオクチバスなどの防除手法の確立を目的として、平成17年度から蘭牟田池オオクチバスなど防除モデル事業を展開し、蘭牟田池における外来魚防除マニュアルを作成した。
その他	富士五湖の山中湖、河口湖、西湖では、オオクチバスが漁業権魚種になっている。
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50330.html 蘭牟田池外来魚駆除マニュアル http://www.city.satsumasendai.lg.jp/www/contents/1296457247646/index.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 滋賀県 外来魚問題 http://www.pref.shiga.lg.jp/g/suisan/mamorou-b-s/gairaigyotaisaku/gairaigyotaisaku-text.html 秋田県 美郷町「大谷地沼ため池」で外来魚駆除を行いました http://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/17093 秋田県 八郎湖『ブラックバス駆除&稚魚すくい』が行われました。 http://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/5808 富士五湖における漁業実態の解明－Ⅰ～増殖事業実態調査～ http://www.pref.yamanashi.jp/suisan-git/documents/jiho41_p19-24.pdf 瀬能ほか(2008)日本の外来魚ガイド. 文一総合出版社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

古くから食用、観賞用として放流されて来ました。鹿児島県では産業管理種に指定され、島嶼を含む県内各地で確認されています。雑食性で、植物や底生動物など多岐にわたり食べるため、生態系への影響が懸念されています。現在、飼育しているコイは、野外に放流してはいけません。

1 基本情報

分類

目・科名	コイ目コイ科	
種名(亜種名)	コイ	
学名	<i>Cyprinus carpio</i>	
環境省カテゴリー	—	
県カテゴリー	産業管理種	
由来	国内由来外来種	
侵略的外来種番付表	大関(島嶼)	
番付表掲載の理由	県民に周知することにより、被害を防止する効果が高いと考えられるもの	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	関東平野、琵琶湖、淀川水系、岡山平野、四万十川	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	江戸時代には養殖が開始され、古くから食用、観賞用として放流されてきた	
県内の侵入分布	島嶼を含む県内各地	
全国の侵入分布	古くから国内でのコイの放流が行われ、明治以降には外国産のコイも各地に放流されたため、広い範囲で在来集団への遺伝的攪乱が進んでいると考えられている	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、貝類などの底生生物、珪藻や水草などの植物を食べる。 主に流れの緩やかな淵など、やや水深のある底層部、砂泥底に生息する。	
形態	全長約60cmで、まれに100cmを越える大型のものもいる。 口ひげは上あご後方と口角にそれぞれ1対、計4本ある。	
繁殖形態	繁殖期は4～7月。産卵は水生植物の多い場所で行われ、水しぶきを上げながら卵を水生植物に産み付ける。	
生息環境	大きな川の中・下流域から汽水域、湖、池沼。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①食性は雑食性で、両生類、魚類、水生昆虫、底生動物、植物など、多岐にわたり捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。
県内で特に予想される被害	県内の両生類、魚類、水生昆虫、底生動物、植物などを食べる。生態系全体への影響が懸念される。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在。高い環境適応力。 ②食用、観賞用としての放流。
3 対策	
コイを見つけたら	飼育しているコイは、野外に放流してはいけません。
見分け方	コイには、口に2対4本のヒゲがあるため、フナ属と区別できる。
見かけやすい場所・時間	活動時間は日中。全国の河川、湖沼の流れの緩やかな淵に生息している。水質の汚染にも強いので、都心を流れる川にも生息している。
防除方法	釣り、刺し網などの捕獲による防除。
防除の取組事例	奄美市では、2015年に住用川と役勝川で捕獲調査を実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50550.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 南海日日新聞 2015年10月1日記事 http://www.nankainn.com/a-and-p/%e5%a5%84%e7%be%8e%e5%b8%82%e3%80%81%e5%a4%96%e6%9d%a5%e3%82%b3%e3%82%a4%e6%8d%95%e7%8d%b2%e3%81%b8 瀬能ほか(2008)日本の外来魚ガイド. 文一総合出版社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

日本には蚊の駆除を目的に導入され、1970年代に急速に広まりました。鹿児島県では重要防除種、環境省では特定外来生物に指定され、島嶼を含む県内各地で確認されています。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがあり、奄美大島ではミナミメダカ個体群を駆逐した例があります。生きたまま運搬することや飼育することは外来生物法で禁止されています。自己の管理する池や水田・水路などで生息を確認したら、水系を介して分布が広がらないように注意し、できれば安楽死させて下さい。

1 基本情報

分類		
目・科名	カダヤシ目カダヤシ科	
種名(亜種名)	カダヤシ	
学名	<i>Gambusia affinis</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 重点対策外来種	
県カテゴリー	重要防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	小結(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	北米	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	県内への侵入の経緯は不明。日本には1913年と1916年に蚊の駆除を目的に導入され、1970年代に急速に広まった	
県内の侵入分布	島嶼を含む県内各地	
全国への侵入分布	福島県以南の本州、四国、九州、沖縄、小笠原	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、落下昆虫や水生昆虫、動植物のプランクトンを食べる。 メダカに比べて攻撃性が強い。低温には弱く、水温18℃以下では活動が鈍る。	
形態	体長はオス3cm、メス4.5cmほどで、メスのほうが大きくなる。 オスのしりびれは交接器になる。メダカに似るが、体が青っぽく尾びれが丸い。	
繁殖形態	卵胎生で、メスは卵ではなく直接子魚を産む。 産卵に水草などを必要としない。	
生息環境	流れの緩い河川下流や用水路。北米の半砂漠地帯では42℃の温泉中にも生息する。	
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。	

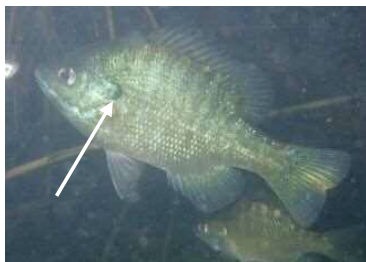
2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①小型の魚類、甲殻類、水生昆虫などの捕食。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがある。奄美大島ではミナミメダカ個体群を駆逐した例がある。
県内で特に予想される被害	小型の魚類、甲殻類、水生昆虫などの捕食。奄美大島ではミナミメダカ個体群を駆逐させた。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①甲殻類、水生昆虫などの捕食。小型の魚類の駆逐。 ②蚊の駆除を目的に導入。
3 対策	
カダヤシを見つけたら	生きたまま運搬することや飼育することは外来生物法で禁止されています。自己の管理する池や水田・水路などで生息を確認したら、水系を介して分布が広がらないように注意し、できれば安楽死させて下さい。
見分け方	カダヤシはしりびれの長さが短く、尾びれが丸い。類似種のミナミメダカは、尾びれが角張っており、しりびれも広い。
見かけやすい場所・時間	活動時間は日中。水田地帯の流れのない用水路や流れの緩やかな用水路。
防除方法	タモ網などによる防除。
防除の取組事例	—
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50230.html 京都府外来生物データ http://www.pref.kyoto.jp/gairai/data/index.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 瀬能ほか(2008)日本の外来魚ガイド. 文一総合出版社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

食用として導入され、その後、ダム湖を中心に放流されました。鹿児島県では緊急防除種、環境省では特定外来生物に指定され、県本土各地で確認されています。肉食性の強い雑食であり、水生植物や水生昆虫などを多岐にわたり捕食するため、生態系全体への影響が懸念されています。生きたまま運搬することや飼育することは外来生物法で禁止されています。釣れた場合などは、リリース(再放流)せずに、安楽死させて持ち帰るか、その場に穴を掘って埋めましょう。外来魚回収ボックスが設置されていたらそれを活用しましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	スズキ目サンフィッシュ科	
種名(亜種名)	ブルーギル	
学名	<i>Lepomis macrochirus</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	関脇(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	北米	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	県内への侵入の経緯は不明。日本には1960年に、食用として導入され、その後、ダム湖を中心に放流された	
県内の侵入分布	県本土各地	
全国の侵入分布	ほぼ全国	
生態学的特性		
生態	食性は肉食の強い雑食で、水生昆虫や、エビ類、水草などを食べる。 主に湖やダム湖、ため池、河川の止水域などに生息し、オオクチバスよりも河川に適応している。	
形態	全長25cm。体高は高い。体形及び体色は、体には7～10本の暗色横帯があり、成長に伴い不明瞭になる。えらぶた後端の突出部に黒斑がある。	
繁殖形態	繁殖期は6～7月、オスが作ったすり鉢状の巣で産卵が行われ、卵および孵化後の稚魚はオスが保護する。	
生息環境	池や沼、流れの緩やかな河川の下流域に生息。	
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。	

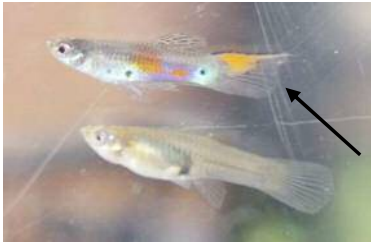
2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①両生類、魚類、水生昆虫、底生動物、水生植物などを多岐にわたり捕食することから、生態系全体への影響が懸念される。
県内で特に予想される被害	両生類、魚類、水生昆虫、底生動物、水生植物などの捕食。生態系全体への影響が懸念される。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①両生類、魚類、水生昆虫、底生動物、水生植物などの捕食。 ②食用としての導入。釣りの対象魚として放流。
3 対策	
ブルーギルを見つけたら	生きたまま運搬することや飼育することは外来生物法で禁止されています。釣れた場合などは、リリース(再放流)せずに、安楽死させて持ち帰るか、その場に穴を掘って埋めましょう。外来魚回収ボックスが設置されていたらそれを活用しましょう。
見分け方	ブルーギルは、体が平たく、体高が高い。目の後方にある濃紺の斑紋が特徴。小型の個体はフナ類やコイ科のタナゴ類に似ているが、ブルーギルは背中から腹部に向かう数本の縞模様(横縞)があることから区別できる。
見かけやすい場所・時間	活動時間は日中。流れの緩やかな河川下流域や湖沼の水面に樹木がせり出した場所や、水中の物陰。
防除方法	モンドリでの捕獲。
防除の取組事例	滋賀県では、滋賀県漁業調整規則による罰則規定がある。また、琵琶湖で漁業者による外来魚の捕獲を行っている。 環境省により、オオクチバスなどの防除手法の確立を目的として、平成17年度から蘭牟田池オオクチバスなど防除モデル事業を展開し、蘭牟田池における外来魚防除マニュアルを作成した。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50310.html 蘭牟田池外来魚駆除マニュアル http://www.city.satsumasendai.lg.jp/www/contents/1296457247646/index.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 滋賀県 外来魚問題 http://www.pref.shiga.lg.jp/g/suisan/mamorou-b-s/gairaigyotaisaku/gairaigyotaisaku-text.html 瀬能ほか(2008)日本の外来魚ガイド. 文一総合出版社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

観賞用として輸入され、逸出、遺棄されたりして広がりました。鹿児島県では一般防除種に指定され、指宿市周辺、天降川、喜界島、沖永良部島で確認されています。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがあります。観賞用で飼育している場合は、最後まで責任を持って飼い続け、途中で捨てないようにしましょう。奄美群島などでは、水温が高く定着しやすいため、特に注意しましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	カダヤシ目カダヤシ科	
種名(亜種名)	グッピー	
学名	<i>Poecilia reticulata</i>	
環境省カテゴリー	その他の総合対策外来種	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	中米	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	観賞用として輸入され遺棄、逸出	
県内の侵入分布	指宿市周辺、天降川、喜界島、沖永良部島	
全国の侵入分布	北海道、福島(内郷温泉)、長野(戸倉、上山田、浅間温泉)、静岡(蓮台寺温泉)、岡山(奥津温泉)、大分(別府温泉)、鹿児島(指宿市周辺、霧島市)、喜界島、沖永良部島、沖縄、小笠原。	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、小動物、藻類、家庭排水に含まれる有機物などを食べる。 冬季でも水温は18℃以下に下がらない高温の流れの緩やかな場所に生息する。低温に弱い。	
形態	全長オス3.5cm、メス5cmで、メスのほうが大きい。 背びれや尾びれの形は様々であり、特にオスでは変異に富む。体色は、野生化したメスではふつう黄褐色であるが、オスではひれや体側に色々な色彩の斑紋を持つものが多い。	
繁殖形態	25℃以上の水温であれば、1ヶ月に1回の割合で産仔する。卵胎生で、卵胎生で、メスは卵ではなく直接子魚を産む。	
生息環境	温かい河川、湧水、排水、水路など。九州以北では温泉地、工業排水など温水の流れ込む河川・水路などに生息する。水質汚染への耐性が極めて強く、市街地の下水溝にも生息。塩分に対する耐性も強く、汽水域でも見られる。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①小型の魚類、甲殻類、水生昆虫などの捕食。胎生種で繁殖力が強く、在来魚類を駆逐するおそれがある。
県内で特に予想される被害	小型の魚類、甲殻類、水生昆虫などの捕食。在来魚類の駆逐。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①小型の魚類、甲殻類、水生昆虫などの捕食。在来魚類の駆逐。 ②観賞用として導入され、逸出、遺棄。
3 対策	
グッピーを見つけたら	観賞用で飼育している場合は、最後まで責任を持って飼い続け、途中で捨てないようにしましょう。奄美群島などでは、水温が高く定着しやすいため、特に注意しましょう。
見分け方	グッピーのオスは赤、青、緑など鮮やかな色彩をしているため区別しやすい。類似種であるミナミメダカは、鮮やかな色彩はしておらず、尾びれが角張っており、尻びれも広い。
見かけやすい場所・時間	温かい河川、湧水、排水、水路。九州以北では温泉地、工業排水など温水の流れ込む河川・水路。 冬でも一定以上の水温を維持できる水域にしか生息できない。
防除方法	タモ網などによる防除。
防除の取組事例	沖縄県ではホームページに外来魚密放流禁止のサイトを作成している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50240.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 沖縄県 外来魚密放流禁止！ http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/suisan/17574.html 川那部ほか(1989)日本の外来魚ガイド. 山と溪谷社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

観賞用の逸出や遺棄したものが野生化したと考えられています。鹿児島県では一般防除種に指定され、奄美大島で確認されています。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがあります。観賞用に飼育している場合は、最後まで責任を持って飼い続け、途中で捨てないようにしましょう。奄美群島などでは、水温が高く定着しやすいため、特に注意しましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	カダヤシ目カダヤシ科	
種名(亜種名)	ソードテール	
学名	<i>Xiphophorus hellerii</i> (グリーンソードテール)	
環境省カテゴリー	その他の総合対策外来種	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	中米(メキシコ南部～グアテマラ)	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	観賞用個体の逸出、遺棄されたものの野生化	
県内の侵入分布	奄美大島	
全国の侵入分布	山梨県、奄美大島、沖縄島、久米島	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、小型の水生動物、植物質の餌を食べる。 幅広い水域に生息し、原産地では汽水域にも生息する。	
形態	体長はオスで5cm、メスで7cm。原産地では15cmほどになるとされている。原種のオスはダークグリーン地にオレンジがかった赤色の帯が、目の後から体中央を通して尾の付け根まで入り、尾びれの下縁の剣のようにのびた部分も、体色の赤い帯と同じ色をしている。メスの体色もオスとほぼ同じ。	
繁殖形態	卵胎生で、メスは卵ではなく直接子魚を産む。	
生息環境	幅広い水域に生息し、特に水草が多い場所を好む。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①小型の魚類、甲殻類、水生昆虫などの捕食。胎生種で繁殖力が強く、在来魚類を駆逐するおそれがある。
県内で特に予想される被害	小型の魚類、甲殻類、水生昆虫などの捕食。在来魚類の駆逐。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①高い繁殖能力。小型の魚類、水生昆虫などの捕食。在来魚類の駆逐。 ②観賞用の逸出、遺棄されたものの野生化。
3 対策	
ソードテールを見つけたら	観賞用で飼育している場合は、最後まで責任を持って飼い続け、途中で捨てないようにしましょう。奄美群島などでは、水温が高く定着しやすいため、特に注意しましょう。
見分け方	在来種であるミナミメダカより大型になり、体高が高い。オスの尾びれは、剣のように見えるため区別しやすい。ミナミメダカの全長は最大4cmと小さく、尾びれが角張っており、尻びれも広い。
見かけやすい場所・時間	活動時間は日中。やや流れのある河川、水田地帯もしくは、緩やかに流れる用水路。
防除方法	タモ網やモンドリ、小型の四つ手網による防除。
防除の取組事例	奄美大島自然保護協会では、奄美大島の河川で外来の淡水生物の調査と防除を行っている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50260.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 南海日日新聞 2015年9月24日記事 http://www.nankainn.com/a-and-p/%e5%a4%96%e6%9d%a5%e6%b7%a1%e6%b0%b4%e7%94%9f%e7%89%a9%e3%82%92%e6%8d%95%e7%8d%b2%e8%aa%bf%e6%9f%bb%ef%bc%8f%e3%82%b9%e3%83%83%e3%83%9d%e3%83%b3%e3%82%84%e3%82%bd%e3%83%bc%e3%83%89%e3%83%86%e3%83%bc 瀬能ほか(2008)日本の外来魚ガイド. 文一総合出版社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

近隣の地域などから侵入しました。鹿児島県では重点防除種に指定されています。タチアワユキセンダングサは県内で分布を拡げ、在来植物との競合や駆逐が確認されています。その他のセンダングサ類である、コバノセンダングサは伊佐市、種子島、アメリカセンダングサは鹿児島市、奄美大島、徳之島、コセンダングサは種子島、屋久島、沖永良部島で確認されています。県内には多くのセンダングサの仲間が外来種として見つかっています。自らが管理する場所に生えていた場合は、できるだけ開花・結実の前に刈り取りや抜き取りを行い、分布の拡大を防ぎましょう。なお、センダングサは在来種ですが、志布志市及び奄美大島では、県内由来外来種となっています。そのため、志布志市及び奄美大島以外で確認したセンダングサの防除の必要はありません。

1 基本情報		
分類		
目・科名	キク科	
種名(亜種名)	センダングサ類	
学名・(和名)	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i> (タチアワユキセンダングサ)	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	重点啓発種	
由来	国外由来外来種	センダングサ類 (写真の種名は不明)
侵略的外来種番付表	関脇(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	熱帯アメリカ	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	近隣地域などからの侵入	
県内の侵入分布	奄美群島 コバノセンダングサは伊佐市、種子島、アメリカセンダングサは鹿児島市、奄美大島、徳之島、コセンダングサは種子島、屋久島、沖永良部島、センダングサは志布志市、奄美大島に侵入分布しています。	
全国の侵入分布	九州南部～沖縄(沖縄諸島、先島諸島)、小笠原諸島	
生態学的特性		
生態	亜熱帯から熱帯の暖かい場所を好む。	
形態	高さ0.5～1.5mの1年草～多年草。葉は5枚の小さい葉が一つになる複葉である。頭状花(主にキク科の花に見られる。多くの花が集まって一つの花のように見える)と白い舌状花(舌のように頭状花の周りについている花)をつける。果実にはトゲがある。 他のセンダングサ類は、いずれも1年草。コバノセンダングサの茎は丸みを帯びた四角形、アメリカセンダングサの茎は暗紫色を帯び、断面は四角形である。コバノセンダングサ、センダングサの葉は羽状複葉(羽のように小さい葉が集まり一つの葉を作っている)、アメリカセンダングサ、コセンダングサは小さい葉が一つになる複葉である。	
繁殖形態	繁殖期は通年。	
生息環境	道端や畑地などに生育する。	
特記事項	鹿児島県に侵入しているセンダングサ類は、コバノセンダングサ、アメリカセンダングサ、コセンダングサ、コシロノセンダングサ、センダングサがある。なお、センダングサは志布志市及び奄美大島以外では在来種である。 タチアワユキセンダングサ及びコシロノセンダングサは、コセンダングサの変種である。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来植物との競合や駆逐。 ②本種を駆除しにくい耕作地の害草としての被害。
県内で特に予想される被害	県内の在来植物との競合や駆逐。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①土壌環境に対する適応性や繁殖能力の高さ。 ②近隣地域などからの侵入。
3 対策	
センダングサ類を見つけたら	自らが管理する場所に生えていた場合は、できるだけ開花・結実の前に刈り取りや抜き取りを行い、分布の拡大を防ぎましょう。
見分け方	センダングサ類は概ね1年生草本であるが、類似種であるタウコギは多年生草本である。また、センダングサ類の葉は羽状複葉であるが、タウコギは複葉でないことで区別できる。
見かけやすい場所・時間	道端や畑地などに生育する。
防除方法	刈り取りや抜き取りによる防除。
防除の取組事例	—
その他	センダングサは日本の在来種ですが、志布志市及び奄美大島では、県内由来外来種となっています。そのため、志布志市及び奄美大島以外で確認したセンダングサの防除の必要はありません。
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81460.html https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80450.html https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80460.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 池原(1989)沖縄植物野外活用図鑑. 新星図書出版. 沖縄 佐竹ほか(1981)日本の野生植物Ⅲ. 平凡社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

栽培されていたものが逸出し侵入しました。鹿児島県では緊急防除種に指定され、島嶼を含む県内各地で確認されています。在来種との競合、生態系への影響、通水障害などの影響が確認されています。家の池や水槽などで栽培していた場合は、排水路などにホテイアオイや水が流れないようにしましょう。流れ出しを防ぐことができない場合は、栽培しないようにしましょう。

1 基本情報

分類

目・科名	ミズアオイ科	
種名(亜種名)	ホテイアオイ	
学名	<i>Eichhornia crassipes</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	大関(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	南米(アルゼンチン周辺)	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	島嶼を含む県内各地	
全国の侵入分布	関東甲信越～九州・琉球列島、八丈島(伊豆諸島) 九州・四国では特に多い	
生態学的特性		
生態	匍匐(ほふく)する茎を伸ばし、子株を次々につくり大群生する。	
形態	高さ10～80cmの常緑多年生の浮遊性植物。 葉は卵心形～円心形。葉柄はふくらんで浮き袋になる。水中に垂れる根は黒紫色で長く、根毛が良く発達する。花は淡紫色。花後、種子ができない場所も多い。	
繁殖形態	花期は6～11月。 親株から茎を伸ばし、子株を次々につくり、大群生する。	
生息環境	暖地の湖沼、溜池、河川、水路、水田、泥土上。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来種と競合。生態系に影響(水面下を被陰)。 ②通水障害。船の通行や漁業妨害。
県内で特に予想される被害	県内の在来種との競合。通水障害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①栄養繁殖が極めて盛んである。 ②栽培されていたものの逸出。
3 対策	
ホテイアオイを見つけたら	家の池や水槽などで栽培していた場合は、排水路などにホテイアオイや水が流れないようにしましょう。流れ出しを防ぐことができない場合は、栽培しないようにしましょう。
見分け方	ホテイアオイは、高さ10～80cmの常緑多年生の浮遊性植物。葉は卵心形～円心形で葉柄はふくらんで浮き袋になる。花は淡紫色。 なお、本種に類似した在来植物はない。
見かけやすい場所・時間	暖地の湖沼、溜池、河川、水路、水田。
防除方法	冬季に越冬株の抜き取りによる防除。
防除の取組事例	海外では、ゾウムシやイガ類などの天敵の導入を行っている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80810.html 北海道ブルーリスト http://bluelist.ies.hro.or.jp/ Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 角野(2014)日本の水草. 文一総合出版. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では産業管理種に指定され、県本土各地、甑島、屋久島で確認されています。在来植物、茶、果樹、植林木、畑作物との競合が確認されています。無秩序な分布の拡大を防ぐためには、管理し、利用することが大切です。管理できない場所には植えないようにしましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	イネ科	
種名(亜種名)	モウソウチク	
学名	<i>Phyllostachys edulis</i>	
環境省カテゴリー	産業管理外来種	
県カテゴリー	産業管理種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	関脇(本土)	
番付表掲載の理由	県民に周知することにより、被害を防止する効果が高いと考えられるもの	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	中国	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	県本土各地、甑島、屋久島	
全国の侵入分布	ほぼ全国、北限は函館	
生態学的特性		
生態	風が弱く、日の良く当たる肥沃地を好む。	
形態	高さ10～20m、径8～20cmも常緑高木。節は1輪状(単環状)、若いときは短毛がある。葉は披針形で、小さくやや薄く、枝先に2～8個ずつつき、裏に軟らかい毛がある。花はめったに咲かない。	
繁殖形態	地下にある茎の節から直立して伸びる。めったに花をつけず、花をつけると藪全体(地下茎で繋がっている範囲)が枯れる。	
生息環境	温帯の林縁、畑地、樹園地、造林地。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来植物、茶、果樹、植林木、畑作物との競合。
県内で特に予想される被害	県内の在来植物、茶、果樹、植林木、畑作物との競合。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①繁殖能力の高さ。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
モウソウチクとの関わり方	無秩序な分布の拡大を防ぐためには、管理し、利用することが大事です。管理できない場所には植えないようにしましょう。
見分け方	モウソウチクの節の輪が1本なのに対し、類似種であるマダケの節の輪は2本である。
見かけやすい場所・時間	林縁、畑地、樹園地、造林地など様々な環境に生育。
防除方法	伐採による防除(地下茎から伐採しなければ再度生えてくる)。タケノコの除去。除草剤の注入。
防除の取組事例	平成22年から愛知県環境部自然環境課、ブラザー工業株式会社及び地元関係者による、茅原沢自然環境保全地域(愛知県岡崎市)での駆除活動が続けられている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80740.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 愛知県ホームページ あいちの外来種 外来種対策の進め方と事例 http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/mousoutiku_katudou.pdf 内村(2005)タケ・ササ図鑑. 創森社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では重要啓発種に指定され、枕崎市、種子島、奄美大島、徳之島で確認されています。在来種の駆逐や海岸植生の改変などの生態系への影響が確認されています。栽培していたものなどが野外に逸出して分布拡大するので、栽培しないようにしましょう。

1 基本情報		
分類		
目・科名	キク科	
種名(亜種名)	アメリカハマグルマ	
学名	<i>Sphagneticola trilobata</i>	
環境省カテゴリー	緊急対策外来種	
県カテゴリー	重点啓発種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	(環境省奄美自然保護官事務所 提供)	
番付表掲載の理由	関脇(島嶼)	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外 来種	
—		
侵入・定着の状況		
自然分布域	熱帯アメリカ	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	枕崎市、種子島、奄美大島、徳之島	
全国の侵入分布	枕崎市、種子島、奄美大島、沖縄諸島各地	
生態学的特性		
生態	日当たりの良いところに生え、時に林床や海岸域にも入り込む。繁殖力が強い。	
形態	高さ40～50cmの多年生草本。 茎は地上を這い、粗い剛毛がある。葉には不規則な鋸歯がある。頭状花は直径2～4cm、舌状花は黄色で8～13個。	
繁殖形態	繁殖力のある種子はあまり作らない。地面に接した茎や、破片から根を出して増える。	
生息環境	熱帯～亜熱帯の農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、河原、低木林、市街地に生育。日向を好むが、耐陰性もある。	
特記事項	—	

(環境省奄美自然保護官事務所 提供)

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来植物を駆逐。生態系に影響（海岸植生などの改変）。
県内で特に予想される被害	県内の在来植物を駆逐。海岸植生などの改変。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①繁殖能力の高さ。海岸植生などの改変。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
アメリカハマグルマとの関わり方	栽培していたものなどが野外に逸出して分布拡大しています。栽培しないようにしましょう。
見分け方	アメリカハマグルマは、高さ40～50cmの多年生草本。葉は長さ4～9cm、幅2～5cm、不規則な鋸歯がある。類似種であるクマノギクは、高さ20～30cmと、アメリカハマグルマより小さい。葉は長さ約5cmで、平たくて細長く、先のほうがとがり、基部のほうがやや広い（披針形）。
見かけやすい場所・時間	熱帯～亜熱帯の農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、河原、低木林、市街地と様々な環境に生育する。
防除方法	抜き取りによる防除。 刈り取ると断片から発根しクローンが広がる危険性があるので行わないこと。
防除の取組事例	奄美大島で、2016年6月4日に、奄美大島エコツアーガイド連絡協議会主催による駆除が行われた。 徳之島で、2016年3月5日に、徳之島町による駆除が行われた。
その他	緑化資材として使用しないことで、本種が他の地域に拡げないようにしましょう。
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81230.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 南海日日新聞 2016年6月4日記事 http://amamishimbun.co.jp/index.php?QBlog-20160604-3 奄美新聞 2016年3月5日記事 http://amamishimbun.co.jp/index.php?QBlog-20160305-1&mode=category&catname=%E5%BE%B3%E4%B9%8B%E5%B3%B6%E9%80%9A%E4%BF%A1 財団法人自然環境研究センター（2008）日本の外来生物. 平凡社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

栽培していたものが逸出したり近隣地域などから侵入して広がりました。鹿児島県では重要防除種、環境省では特定外来生物に指定され、島嶼を含む県内各地で確認されています。水生の在来植物を駆逐する影響があります。外来生物法で、栽培や野外に捨てることは禁止されています。既に県内各地に定着しています。自己の管理する池や水田・水路などで生育を確認したら、水系を介して分布が広がらないように注意し、除去して処分して下さい。

1 基本情報

分類		
目・科名	アリノトウグサ科	
種名(亜種名)	オオフサモ	
学名	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 緊急対策外来種	
県カテゴリー	重要防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	関脇(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	南米	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出、近隣地域などからの侵入	
県内の侵入分布	島嶼を含む県内各地	
全国の侵入分布	ほぼ全国(青森、岩手、秋田、福島、新潟、石川の各県では未確認)	
生態学的特性		
生態	茎が水中で分枝を繰り返し、群生する。植物体断片から根を出し、再生する力も優れている。	
形態	多年草の抽水植物。 茎が水中をはうように広がり、枝分かれを繰り返して群生する。茎はしばしば赤身がかかる。葉は5～6輪生。水上の葉は緑白色。水中の葉は繊細。花は白色。	
繁殖形態	花期は6月ごろ、果実はできない。雌雄異株で日本では雌株のみが帰化。植物断片から再生する能力に優れる。	
生息環境	暖温帯～熱帯の池沼、溜池、河川、水路などに生育する。県内では各地の中規模河川、ため池などで、川内川では、中流～下流で見られる。	
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。 パロットフェザーとも呼ばれています。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①水生の在来植物を駆逐。
県内で特に予想される被害	県内の水生の在来植物を駆逐。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①水生の在来植物を駆逐。 ②栽培していたものの逸出。近隣地域からの侵入。
3 対策	
オオフサモを見つけたら	外来生物法で、栽培や野外に捨てることは禁止されています。既に県内各地に定着しています。自己の管理する池や水田・水路などで生育を確認したら、水系を介して分布が広がらないように注意し、除去して処分して下さい。
見分け方	オオフサモは、多年草の抽水植物。葉は粉白を帯びた緑色の線形で葉が3～7枚輪生する。類似種のフサモは、多年生の沈水植物。葉が4枚輪生する。
見かけやすい場所・時間	県内では各地の中規模河川、ため池などで、川内川では、中流～下流で見られる。
防除方法	抜き取りによる防除。
防除の取組事例	平成22年から国土交通省 大洲河川国道事務所による、愛媛県矢落川の河原での駆除作業が行われている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80250.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ オオフサモ(特定外来生物)の撤去の取り組みについて http://www.skr.mlit.go.jp/oozu/kisya/pdf_h23_kisya802.pdf

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では一般防除種に指定され、南さつま市、出水市、伊佐市、屋久島で確認されています。在来植物との競合が確認されています。分布の拡大を防ぐために、植えないようにしましょう。自己の管理地に生えている場合は、できれば抜き取りや伐採により除去しましょう。

1 基本情報

分類

目・科名	トウダイグサ科	
種名(亜種名)	アブラギリ	
学名	<i>Vernicia cordata</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	県内由来外来種	
侵略的外来種番付表	関脇(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内由来外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	中国。南日本に自然分布している可能性がある。	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	南さつま市、出水市、伊佐市、屋久島	
全国の侵入分布	本州(関東地方以西)、四国、九州、沖縄	
生態学的特性		
生態	日当たりの良い所を好む。	
形態	高さ15mの落葉の高木。幹の直径は60cmになる。 全体にほとんど無毛。樹皮は淡灰褐色。枝は若いときから太く、淡い緑色だが、2年目には暗褐色となる。葉は互生で鋸歯があり、ときに上部が浅く3つに裂ける。花は白色で枝先につく。	
繁殖形態	花期は5～6月。 果実に種子は通常3個あり、ほぼ球形。	
生息環境	暖地の様々な環境に生育している。	
特記事項	—	

(鹿児島県立博物館 提供)

(鹿児島県立博物館 提供)

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来植物と競合。
県内で特に予想される被害	県内の在来植物と競合。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①生息環境適応力の高さ。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
アブラギリとの関わり方	分布の拡大を防ぐために、植えないようにしましょう。自己の管理地に生えている場合は、できれば抜き取りや伐採により除去しましょう。
見分け方	アブラギリは、高さ8m～18m。幹は直立し、樹皮は淡灰褐色で平滑。類似種であるイイギリは、高さ10～15m。幹は直立し、樹皮は灰白色で皮目が目立つ。
見かけやすい場所・時間	暖地の様々な環境に生育している。
防除方法	幼木の抜き取りや伐採などによる防除。
防除の取組事例	平成25年度に屋久島において、屋久島世界遺産地域等における森林生態系に関するモニタリング調査で、アブラギリの加害実態等把握調査を実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 屋久島世界遺産地域等における森林生態系に関するモニタリング調査の概要 http://www.env.go.jp/park/yakushima/ywhcc/wh/kagaku/9/140301_2-1.pdf 林ほか(1985)原色樹木大図鑑. 北隆館. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では重要防除種、環境省では特定外来生物に指定され、島嶼を含む県内各地に点在しています。在来水生植物と競合したり、水中の酸素欠乏、水面下の被陰などの生態系への影響、通水障害があります。外来生物法で、栽培や野外に捨てることは禁止されています。既に県内各地に定着しています。自己の管理する池や水田・水路などで生育を確認したら、水系を介して分布が広がらないように注意し、除去して処分して下さい。

1 基本情報

分類		
目・科名	サトイモ科	
種名(亜種名)	ボタンウキクサ	
学名	<i>Pistia stratiotes</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 緊急対策外来種	
県カテゴリー	重要防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	小結(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	熱帯(南アフリカ?)	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	島嶼を含む県内各地に点在	
全国の侵入分布	関東から北陸以西、北陸以西から沖縄、小笠原	
生態学的特性		
生態	葉の間から茎を伸ばし、子株、孫株を次々とつくり、瞬く間に水面に広がる。	
形態	暖地では常緑多年草となる浮遊性植物。 茎はごく短い。葉は互生して放射状に広がり、ピロード状に短毛が密生する。根は羽毛状に分裂して水中に垂れさがる。花は淡緑色。	
繁殖形態	繁殖期は5～10月。 葉の間から茎を伸ばして、子株、孫株を次々とつくり、瞬く間に水面を覆う。	
生息環境	亜熱帯～熱帯の池沼、河川、水田の日当たりの良いところに生育。	
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。 ウォーターレタスとも呼ばれています。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来水生植物と競合。生態系に影響(水中の酸素欠乏、水面を被陰)。 ②通水障害。
県内で特に予想される被害	県内の在来水生植物との競合。通水障害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①繁殖能力の高さ。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
ボタンウキクサを見つけたら	外来生物法で、栽培や野外に捨てることは禁止されています。既に県内各地に定着しています。自己の管理する池や水田・水路などで生育を確認したら、水系を介して分布が広がらないように注意し、除去して処分して下さい。
見分け方	ボタンウキクサは常緑の多年草で水面を浮遊する水草で、茎はごく短い。水面に水平または斜めに葉を広げる。花は小さくて目立たない。 なお、本種に類似した在来植物はない。
見かけやすい場所・時間	池沼、河川、水田の日当たりの良い場所に生育。
防除方法	熊手で引き寄せるなどの人力やパワーショベルなどの重機による防除。
防除の取組事例	平成21年から緑川水系水草対策連絡協議会の関係機関による、緑川流域(江津湖)での駆除が続けられている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80790.html 財団法人自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社. 東京 Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 国土交通省河川環境課(2013)河川における外来植物対策の手引きp191-194.

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では産業管理種に指定され、トカラ列島の宝島などで確認されています。在来木本との競合が確認されています。防風林などで植栽する場合は、他の樹種で代替できないかをあらかじめ検討するとともに、使用が避けられない場合は、分布の無秩序な拡大を招かないよう、管理の方法を検討しましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	モクマオウ科	
種名(亜種名)	トクサバモクマオウ	
学名	<i>Casuarina equisetifolia</i>	
環境省カテゴリー	—	
県カテゴリー	産業管理種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	小結(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	オーストラリア	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	トカラ列島(宝島)など	
全国の侵入分布	琉球列島、小笠原諸島	
生態学的特性		
生態	海岸の砂浜などでもよく生育する。 塩分に対して強い抵抗力を持っている。	
形態	高さ7～10mで最大20mになる常緑高木。 材は硬く折れやすい。若枝には灰白色の毛が密生し、のちに無毛になる。葉は線形で6～9枚が輪生する。枝に雌花、その上部または葉のような枝の先に雄花をつける。雄花は狭円筒形。雌花は球形、花柱は細く赤色。果実は淡褐色でへん平な楕円形、上半部は翼となる。	
繁殖形態	開花時期は4～6月。 雌雄同株。	
生息環境	荒地、沿岸部などに生育。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来木本と競合。
県内で特に予想される被害	県内の在来木本と競合。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①生息環境適応力の高さ。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
トクサバモクマオウとの関わり方	防風林などで植栽する場合は、他の樹種で代替できないかをあらかじめ検討するとともに、使用が避けられない場合は、分布の無秩序な拡大を招かないよう、管理の方法を検討しましょう。
見分け方	トクサバモクマオウは、高さ7～10mで最大20mになる常緑高木で、材は硬く折れやすい。果実は淡褐色でへん平な楕円形で上半部は翼となる。 なお、本種に類似した在来植物はない。
見かけやすい場所・時間	荒地、沿岸部などに生育。
防除方法	伐採などによる防除。
防除の取組事例	東京都では、小笠原諸島での駆除を実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81500.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 東京都小笠原支庁ホームページ 外来木本植物対策 http://www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogasawara/nature/grapple_introducedspecies.html

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

栽培していたものが逸出したり近隣地域などから侵入して広がりました。鹿児島県では一般防除種、環境省では特定外来生物に指定され、県本土各地、種子島、徳之島で確認されています。在来植物の駆逐や景観の改変などの生態系への影響が確認されています。外来生物法で、栽培や種子をまくことは禁止されています。既に県内各地に定着しています。自己の管理地で生育を確認したら、除去して処分して下さい。

1 基本情報

分類

目・科名	キク科	
種名(亜種名)	オオキンケイギク	
学名	<i>Coreopsis lanceolata</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 緊急対策外来種	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	国外由来外来種	

侵略的外来種番付表	小結(本土)
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100

侵入・定着の状況

自然分布域	北米
県内初報告	不明
県内への侵入の経緯	栽培逸出、近隣地域などからの侵入
県内の侵入分布	県本土各地、種子島、徳之島
全国の侵入分布	沖縄を含むほぼ全国

生態学的特性

生態	刈り取りに対する再生力が強く、繁殖力が旺盛な植物である。
形態	高さ30～70cmの多年性草本。 葉は対生または一部互生し、狭倒披針形。根元から出る葉は花時もあり、長い柄があり、3～5の小さな葉からなる。筒状花(花びらの基部が筒状になっているもの)と舌状花は橙黄色。
繁殖形態	開花時期は5～7月。 頭状花、虫媒花。
生息環境	温帯の路傍、河川敷、線路際などの荒地、海岸。
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来植物を駆逐。生態系に影響（景観の改変）。
県内で特に予想される被害	県内の在来植物を駆逐。景観の改変。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①在来植物を駆逐。繁殖能力の高さ。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
オオキンケイギクを見つけたら	外来生物法で、栽培や種子をまくことは禁止されています。既に県内各地に定着しています。自己の管理地で生育を確認したら、除去して処分して下さい。
見分け方	オオキンケイギクは、高さ30～70cmの多年性草本。茎につく葉は対生または一部互生。舌状花の先は4～5裂する。 なお、本種に類似した在来植物はない。
見かけやすい場所・時間	路傍、河川敷、線路際などの荒地、海岸。
防除方法	抜き取りによる防除。
防除の取組事例	奄美大島で、2009年から奄美大島エコツアーガイド連絡協議会主催による駆除が行われている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80490.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 南海日日新聞 2016年6月4日記事 http://amamishimbun.co.jp/index.php?QBlog-20160604-3 国土交通省河川環境課(2013)河川における外来植物対策の手引きp102-110.

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では緊急防除種に指定され、奄美群島で確認されています。在来木本の駆逐やギャップの占拠などの生態系への影響が確認されています。分布の拡大を防ぐために、植えないようにしましょう。自己の管理地に生えている場合は、抜き取りや伐採により除去しましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	トウダイグサ科	
種名(亜種名)	アカギ	
学名	<i>Bischofia javanica</i>	
環境省カテゴリー	緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国内由来外来種	
侵略的外来種番付表	小結(島嶼)	
番付表掲載の理由	県民に周知することにより、被害を防止する効果が高いと考えられるもの	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	琉球列島～中国～東南アジア、オーストラリア、ポリネシア	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	奄美群島	
全国の侵入分布	小笠原諸島、奄美群島	
生態学的特性		
生態	大量の果実をつける。実生の数と実生の生存力が強く、光条件がよくなると森林を埋め尽くす。	
形態	高さ25mに達する常緑広葉樹。 葉は3出複葉で互生。複葉についている小さな葉は卵形～卵状楕円形。多数の緑色をおびた花をつけるが、長さは葉よりも短い。果実は熟して褐色となり3～4個の種子がある。	
繁殖形態	花期は2～3月。 雌雄異株。果実は鳥などにより散布する。	
生息環境	亜熱帯～熱帯の谷部のやや湿った場所に生育する。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来木本を駆逐。生態系に影響（ギャップの占拠）。
県内で特に予想される被害	県内の在来木本を駆逐。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①在来木本を駆逐。 ②栽培されていたものの逸出。
3 対策	
アカギとの関わり方	分布の拡大を防ぐために、植えないようにしましょう。自己の管理地に生えている場合は、抜き取りや伐採により除去しましょう。
見分け方	アカギは、高さ10～20mの常緑の高木。果実は球形で、褐色または帯赤色に熟し、房状に垂れ下がる。 なお、県内の侵入分布である奄美群島に本種に類似した在来木本はない。
見かけやすい場所・時間	谷部のやや湿った場所に生育する。
防除方法	雌木を重点に、皆伐して別の樹木で造林。環状剥皮、萌芽抑制剤の使用。実生の抜き取り。幼木の抜き取り。
防除の取組事例	東京都では、小笠原諸島での駆除を実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80940.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 東京都小笠原支庁ホームページ 外来木本植物対策 http://www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogasawara/nature/grapple_introducedspecies.html

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

近隣地域などから侵入しました。鹿児島県では一般防除種に指定され、鹿児島市、口永良部島、沖永良部島で確認されています。中毒による家畜の健康被害が確認されています。自己の管理地に生えている場合は、できれば刈り取り、抜き取りにより除去しましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	キク科	
種名(亜種名)	オオオナモミ	
学名	<i>Xanthium occidentale</i>	
環境省カテゴリー	その他の総合対策外来種	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	北アメリカ	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	近隣地域などからの侵入	
県内の侵入分布	鹿児島市、口永良部島、沖永良部島	
全国の侵入分布	ほぼ全国	
生態学的特性		
生態	土壌条件に対する適応性が大きい。	
形態	茎の長さは0.5～2.0mの一年生草本。 茎は短毛があってざらつき、紫褐色を帯びる。葉は広卵形で通常は3個、ときに5個に中程まで裂ける。表面は細かい毛があり、裏面は短毛があってざらつく。雄花は黄白色、雌花は淡緑色。トゲは15～25mmで褐色に成熟する。	
繁殖形態	花期は9～12月。	
生息環境	野原や市街地の空き地、河川敷、道端に生育する。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	②家畜の健康被害(中毒)。
県内で特に予想される被害	県内の家畜への健康被害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①生息環境適応力の高さ。 ②近隣地域などからの侵入。
3 対策	
オオオナモミを見つけたら	自己の管理地に生えている場合は、できれば刈り取り、抜き取りにより除去しましょう。
見分け方	オオオナモミの果実は、トゲが密にあるが、毛はイガオナモミより少ない。類似種のオナモミの果実は、トゲも毛も少ない。また、イガオナモミの果実は、3種のうちトゲと毛がもっとも多い。
見かけやすい場所・時間	上流～中流の流水辺で、泥土の堆積した富栄養地に大群落をつくる。樹木や多年草植物が生育できないダム湖内や定期的に泥土に覆われる河原などに生育する。
防除方法	開花前の刈り取り、抜き取り、除草剤による防除。
防除の取組事例	—
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80660.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 清水(2003)日本帰化植物写真図鑑. 平凡社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では一般防除種に指定され、島嶼を含む県内各地で確認されています。河原の在来植物の駆逐、海浜の草原化による景観改変などの生態系への影響、砂の堆積促進が確認されています。工事現場の法面緑化などで広く使われてきました。緑化に用いないようにしましょう。特に自然性の高い地域では使用しないようにしましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	イネ科	
種名(亜種名)	シナダレスズメガヤ	
学名	<i>Eragrostis curvula</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	南アフリカ	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出、近隣地域などからの侵入	
県内の侵入分布	島嶼を含む県内各地	
全国の侵入分布	沖縄を含むほぼ全国	
生態学的特性		
生態	日当たりが良く、砂質土壌を好む。耐暑性と耐旱性は強いが、耐陰性と耐湿性は弱い。	
形態	高さ0.6～1.2mのイネ科の多年生草本。 葉身は長さ40～60cmで内側に巻き、先端は糸状に細まる。	
繁殖形態	花期は夏。 両性花、風媒花。果実は風、雨、動物、人間により伝播する。地下にある茎により繁殖する。	
生息環境	温帯～熱帯の牧草地、道ばた、法面、荒地、河川敷。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①河原の在来植物を駆逐。生態系に影響（海浜の草原化による景観改変）。砂の堆積促進。
県内で特に予想される被害	県内の河原の在来植物を駆逐。砂の堆積促進。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①河原の在来植物を駆逐。 ②栽培していたものの逸出。
シナダレスズメガヤを見つけたら	工事現場の法面緑化などで広く使われてきました。緑化に用いないようにしましょう。特に自然性の高い地域では使用しないようにしましょう。
見分け方	シナダレスズメガヤは、高さ0.6～1.2mのイネ科の多年草で、葉身は長さ40～60cmで垂れ下がっている。ススキは、高さ1.0m～2.0mのイネ科の多年草であるが、夏から秋にかけて、長さ20から30cm程度の十数本に分かれた総をつける。
見かけやすい場所・時間	牧草地、道端、荒地、河川敷。
防除方法	刈り取りや抜き取りによる防除。
防除の取組事例	平成14年から東京大学保全生態学研究室、市民団体「うじいえ自然に親しむ会」、下館河川事務所が協働による、鬼怒川中流での駆除が続けられている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80760.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 国土交通省河川環境課(2013)河川における外来植物対策の手引きp142-148、p180-183.

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

近隣地域からの侵入で広がりました。鹿児島県では一般防除種に指定され、島嶼を含む県内各地で確認されています。在来植物を駆逐する影響が出ています。自己の管理地に生えている場合は、できれば刈り取り、抜き取りなどにより除去しましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	アカネ科	
種名(亜種名)	メリケンムグラ	
学名	<i>Diodia virginiana</i>	
環境省カテゴリー	—	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(本土)	
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	北米	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	近隣地域などからの侵入	
県内の侵入分布	島嶼を含む県内各地	
全国の侵入分布	本州(神奈川県以西)～九州	
生態学的特性		
生態	川原では、やや湿り気のある場所に生育している。	
形態	一年生草本とされるが、鹿児島では多年生個体がある可能性もある。 根は主根が針金状で、細い側根が多く生える。茎は根際から四方に広がり、匍匐(ほふく)または斜上する。葉は対生で、広線形から細長い楕円形である。花は白色。	
繁殖形態	花期は7～9月。 一年草とされるが、鹿児島では多年草個体がある可能性もある。	
生息環境	水田の畦道や川原の湿地など。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来植物を駆逐。
県内で特に予想される被害	県内の在来植物を駆逐。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①在来植物を駆逐。 ②近隣地域などからの侵入。
3 対策	
メリケンムグラを見つけたら	自己の管理地に生えている場合は、できれば刈り取り、抜き取りなどにより除去しましょう。
見分け方	メリケンムグラは、つる性の一年草。白い十字形の微毛のある花弁をもつ両性花をつける。 なお、本種に類似した在来植物はない。
見かけやすい場所・時間	水田の畦道や川原の湿地など。
防除方法	刈り取りや抜き取りによる防除。
防除の取組事例	—
その他	—
参考資料・参考URL	Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 財団法人自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

近隣地域からの侵入で広がりました。鹿児島県では重要防除種、環境省では特定外来生物に指定され、鹿屋市、東串良町で確認されています。希少植物の駆逐や通水障害の影響が出ています。外来生物法で、栽培や野外に捨てることは禁止されています。自己の管理する池や水田・水路などで生育を確認したら、水系を介して分布が広がらないように注意し、除去して処分して下さい。

1 基本情報

分類		
目・科名	アカバナ科	
種名(亜種名)	ウスゲオオバナミズキンバイ	
学名	<i>Ludwigia grandiflora</i> susp. <i>hexapetala</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 緊急対策外来種	
県カテゴリー	重要防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	中南米	
県内初報告	2009年に鹿児島県肝属川水系串良川の数カ所で群生が確認された。	
県内への侵入の経緯	近隣地域などからの侵入。	
県内の侵入分布	鹿屋市、東串良町	
全国の侵入分布	鹿児島県	
生態学的特性		
生態	流れが緩やかな富栄養な環境を好む。	
形態	多年生の浮葉～抽水～湿生植物。茎は高さ30～120cm。抽水型の葉は細長く、浮葉は楕円形～長楕円形。湿地に生育する茎葉には毛があり、白みがる。花は黄色。	
繁殖形態	茎は地表あるいは水中をはいながら茎を立ち上げ、群落を広げる。	
生息環境	湖沼や河川、水路など。	
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①希少植物の駆逐。 ②通水障害。
県内で特に予想される被害	県内の希少植物の駆逐や通水障害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①希少植物の駆逐。 ②近隣地域などからの侵入。
3 対策	
ウスゲオオバナミズキンバイを見つけたら	外来生物法で、栽培や野外に捨てることは禁止されています。自己の管理する池や水田・水路などで生育を確認したら、水系を介して分布が広がらないように注意し、除去して処分して下さい。
見分け方	浮葉の形態では類似種であるミズキンバイとの区別は難しいが、湿生形のヤナギ類に似た細長い葉と花弁先端が凹むに着目すれば見分けられる。
見かけやすい場所・時間	湖沼や河川、水路など。
防除方法	刈り取りや抜き取りによる防除。
防除の取組事例	滋賀県では、平成28年にオオバナミズキンバイの防除を実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	環境省 日本の外来種対策 特定外来生物の解説 http://www.env.go.jp/nature/intro/1outline/list/L-syo-13.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 滋賀県 第7回オオバナミズキンバイ除去大作戦 http://www.pref.shiga.lg.jp/d/shizenkankyo/files/akanoi.pdf 角野(2014)日本の水草. 文一総合出版. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

近隣地域からの侵入で広がりました。鹿児島県では一般防除種に指定され、県本土各地、徳之島で確認されています。在来植物の駆逐の影響が確認されています。自己の管理地に生えている場合は、できれば刈り取り、抜き取りなどにより除去しましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	キク科	
種名(亜種名)	セイタカアワダチソウ	
学名	<i>Solidago altissima</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	北米	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出、近隣地域などからの侵入	
県内の侵入分布	県本土各地、徳之島	
全国の侵入分布	ほぼ全国	
生態学的特性		
生態	粒経の細かいシルトから粘土質の土壤に繁茂する。耐乾性がある。蜂蜜の供給源、鳥類などの生息環境を提供。	
形態	高さ0.5～3.0mの多年生草本。 茎は紫褐色を帯びている。葉は細長い楕円形で無柄、低い鋸歯がある。葉、茎ともに短毛が密生している。多数の黄色い頭状花をつける。	
繁殖形態	繁殖期は8～11月。 頭状花、虫媒花。地下茎により繁殖。	
生息環境	温帯の河川敷、土手、荒地、原野、休耕地、道端。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来植物を駆逐。生態系に影響（多種を被陰）。 ③花粉症による人への健康被害のおそれがある。
県内で特に予想される被害	県内の在来植物を駆逐。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①在来植物を駆逐。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
セイタカアワダチソウを見つけたら	自己の管理地に生えている場合は、できれば刈り取り、抜き取りなどにより除去しましょう。
見分け方	セイタカアワダチソウの茎や葉には短毛が多く、ざらつくが、類似種であるアキノキリンソウには短毛はあるが、茎の上部に生える。
見かけやすい場所・時間	河川敷、土手、荒地、原野、休耕地、道端。
防除方法	刈り取りや抜き取りによる防除。
防除の取組事例	新潟県長岡市や阿賀野市ではホームページにセイタカアワダチソウについてのサイトを作成している。
その他	1970年頃より刈り取り、1980年頃から植物遷移の進行に伴いオギ、ススキと交替か。天敵昆虫や病原体の増加でやや衰退している可能性もある。
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80600.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 長岡市ホームページ セイタカアワダチソウの拡大を防ぎましょう http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kurashi/cate09/doubutu/seitaka-awadatisou.html 阿賀野市ホームページ セイタカアワダチソウに注意しましょう http://www.city.agano.niigata.jp/soshiki/seikatsu/8493.html

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では一般防除種に指定され、島嶼を含む県内各地で確認されています。在来ユリ類との競合や在来種との雑種形成の可能性があります。在来種のユリが自生する甬島、奄美群島、請島などでは交雑のおそれがありますので、栽培することは控えましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	ユリ科	
種名(亜種名)	タカサゴユリ	
学名	<i>Lilium formosanum</i>	
環境省カテゴリー	その他の総合対策外来種	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	台湾	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	島嶼を含む県内各地	
全国の侵入分布	宮城、福島、関東以南の本州、四国、九州、琉球列島	
生態学的特性		
生態	日当たりの良い法面や道路わき、空き地などに侵入する。	
形態	高さ約1.5mの多年草。 茎の高さは0.3～1.5mで、葉が多く互生している。葉は無柄でやや茎を抱き、線形。花の内側は白色で外側が赤紫色、1～数個、上つき、横からやや下向きに咲く。	
繁殖形態	花期は7～11月。 風媒花、自家受粉可。種子を大量に風散布。	
生息環境	亜熱帯～温帯の荒地、道端、堤防、高速道路法面。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来ユリ類と競合。繁殖干渉(在来ユリ類と雑種形成のおそれあり)。
県内で特に予想される被害	県内の在来ユリ類と競合。在来ユリ類と雑種を形成する可能性がある。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①生息環境適応力の高さ。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
タカサゴユリを見つけたら	在来種のユリが自生する甌島周辺、トカラ列島、奄美群島などでは交雑のおそれがありますので、栽培することを控えましょう。
見分け方	タカサゴユリは、幅1cm、長さ15cmほどの線形の葉をやや密につける。類似種であるテッポウユリは、披針形の葉で長さは10～18cm。
見かけやすい場所・時間	日当たりの良い法面、荒地、道端、堤防、高速道路法面に生育する。
防除方法	抜き取りによる防除。
防除の取組事例	奄美大島で、2015年5月27日に、大和村と環境省野生生物保護センターによる駆除作業が行われた。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81040.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 奄美新聞 2015年5月27日記事 http://amamishimbun.co.jp/index.php?QBlog-20150527-3 佐竹ほか(1981)日本の野生植物Ⅰ. 平凡社. 東京

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

近隣地域からの侵入で広がりました。鹿児島県では一般防除種に指定され、鹿児島市、薩摩川内市、南九州市、志布志市で確認されています。在来植物との競合やトゲによる怪我などの人間への健康被害が出ています。自己の管理地に生えている場合は、できれば刈り取り、抜き取りにより除去しましょう。芝生の広場などでは手をついたり、裸足で歩いたりして怪我をしないよう注意しましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	キク科	
種名(亜種名)	メリケントキンソウ	
学名	<i>Soliva sessilis</i>	
環境省カテゴリー	—	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(本土)	
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	南米	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	近隣地域などからの侵入 (靴底に種子がつくことによる分布拡大)	
県内の侵入分布	鹿児島市、薩摩川内市、南九州市、志布志市	
全国の侵入分布	本州(関東以西)、四国、九州	
生態学的特性		
生態	発芽してから1年以内に、開花・結実し種子を残して枯れてしまう植物である一年生草本であるため、結実すると植物は枯れる。	
形態	高さ5cm程の一年生草本。 全体に目立つ軟毛が生える。枝は頭状花を囲む葉のわきから出て、伸長し、黄色の頭状花をつける。果実はカブトガニに似た形をしており、トゲを持つ。	
繁殖形態	秋頃に芽を出し(発芽)、4～5月頃に花を咲かせ(開花)、5～6月頃に種子をつける(結実)。	
生息環境	公園、道端、空き地、芝生などの明るい場所に生育する。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来植物と競合。 ③トゲによる怪我などの健康被害。
県内で特に予想される被害	在来植物と競合。トゲによる怪我。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①繁殖能力の高さ。 ②靴底に種子がつくことによる分布拡大。
3 対策	
メリケントキンソウを見つけたら	自己の管理地に生えている場合は、できれば刈り取り、抜き取りにより除去しましょう。芝生の広場などでは手をついたり、裸足で歩いたりして怪我をしないよう注意しましょう。
見分け方	メリケントキンソウは、葉が明るい緑色、枝には、全体に目立つ軟毛が生える、果実には硬く鋭いトゲがある。シマトキンソウは、葉がくすんだ緑色、枝には毛が少ない。
見かけやすい場所・時間	公園、道端、空き地、芝生などの明るい場所に生育する。
防除方法	刈り取りや抜き取り、可能な場所では薬剤による防除。一年生草本のため、結実すると植物は枯れる。そのため、駆除の時期としては、2月下旬～4月上旬の開花時期前が効果的である。
防除の取組事例	静岡県浜松市ではホームページにメリケントキンソウについてのサイトを作成している。
その他	トゲを出す5～6月頃は特に危険な時期であるため、芝生や草むらに直接座らない、手をつかない、裸足で歩かないなど注意が必要。
参考資料・参考URL	鹿児島県ホームページ 外来生物「メリケントキンソウ」に注意しましょう。 http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/meriken.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 浜松市ホームページ 芝生地内のメリケントキンソウ(外来植物)にご注意ください！ http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/kouen/park/parks/talk/merikentokinsou.html

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

近隣地域からの侵入で広がりました。鹿児島県では一般防除種に指定され、奄美大島、徳之島などで確認されています。在来木本を駆逐したり、遷移の停止などの生態系への影響が出ています。自己の管理地に生えている場合は、できれば伐採などにより除去しましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	マメ科	
種名(亜種名)	ギンネム	
学名	<i>Leucaena leucocephala</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	中米～南米	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出。近隣地域からの侵入など	
県内の侵入分布	奄美大島、徳之島など	
全国の侵入分布	小笠原、八重山諸島、奄美大島	
生態学的特性		
生態	日当たりのよい道端や原野、林縁に生育する。種子繁殖、萌芽の再生から成長が速く、森林をつくる。その後、遷移が進みにくい。	
形態	樹高は1～10mの常緑広葉樹。 茎は直立して枝分かれます。葉は羽状複葉で無毛。茎の先に淡緑色の頭状花をつける。約15cmの扁平なマメのような果実をつける。	
繁殖形態	繁殖期は通年。 両性花で虫媒花。マメのような果実は重力散布。	
生息環境	亜熱帯～熱帯の日当たりの良い道ばたや原野、林縁に生育する。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来木本を駆逐。生態系に影響(遷移の停止)。
県内で特に予想される被害	県内の在来木本を駆逐。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①在来木本を駆逐。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
ギンネムを見つけたら	自己の管理地に生えている場合は、できれば伐採などにより除去しましょう。
見分け方	ギンネムの花は、類似種のネムノキに比べ、白くやや小さい球状になる。
見かけやすい場所・時間	日当たりの良い道ばたや原野、林縁に生育する。
防除方法	伐採による防除。
防除の取組事例	東京都では、小笠原諸島での駆除を実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80130.html 財団法人自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社. 東京 Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 東京都小笠原支庁ホームページ 外来木本植物対策 http://www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogasawara/nature/grapple_introducedspecies.html